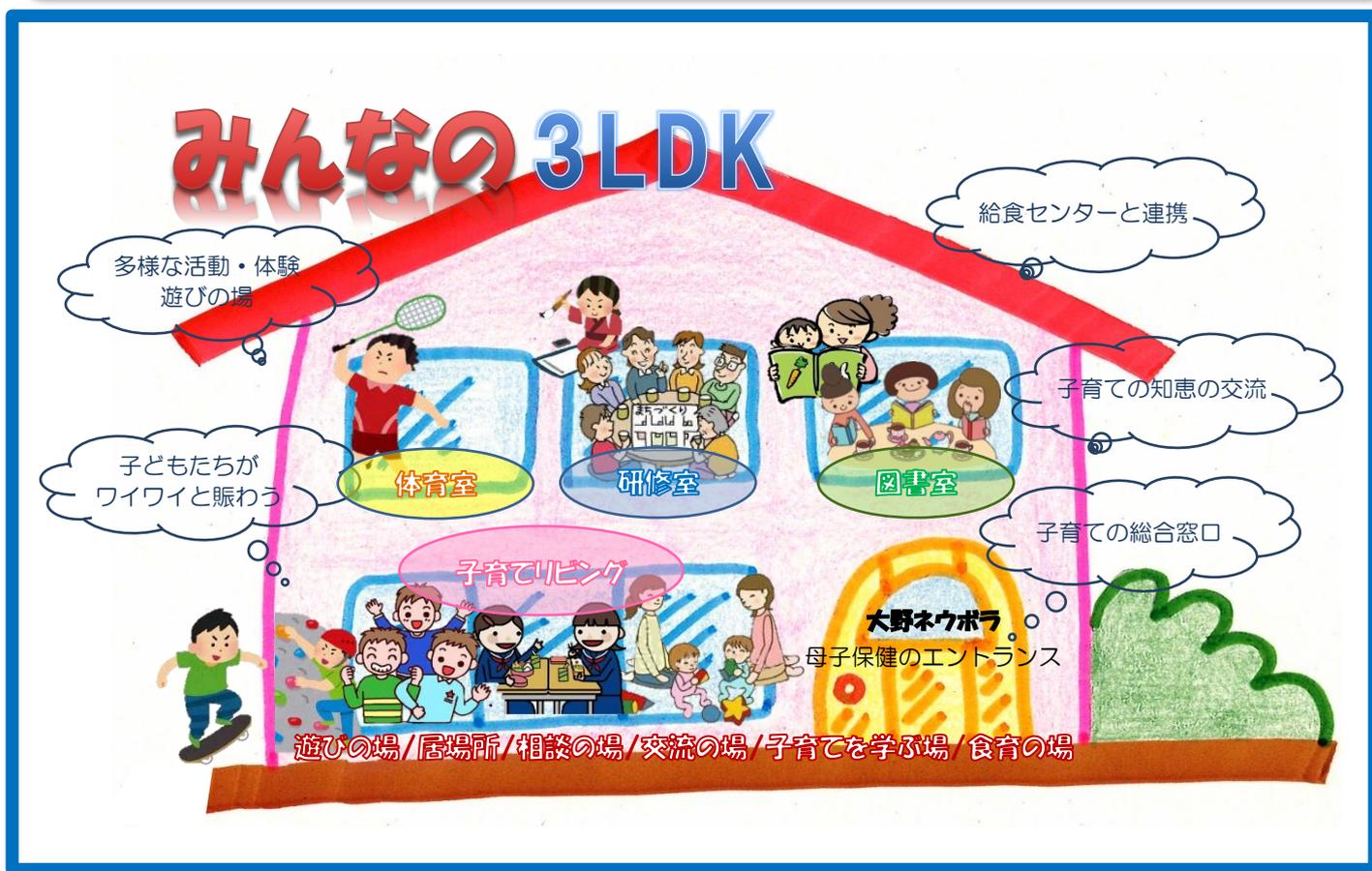


# 筏津地区公共施設再編基本構想

安全安心で子育てに優しい子どもたちを応援する「居場所」の創出



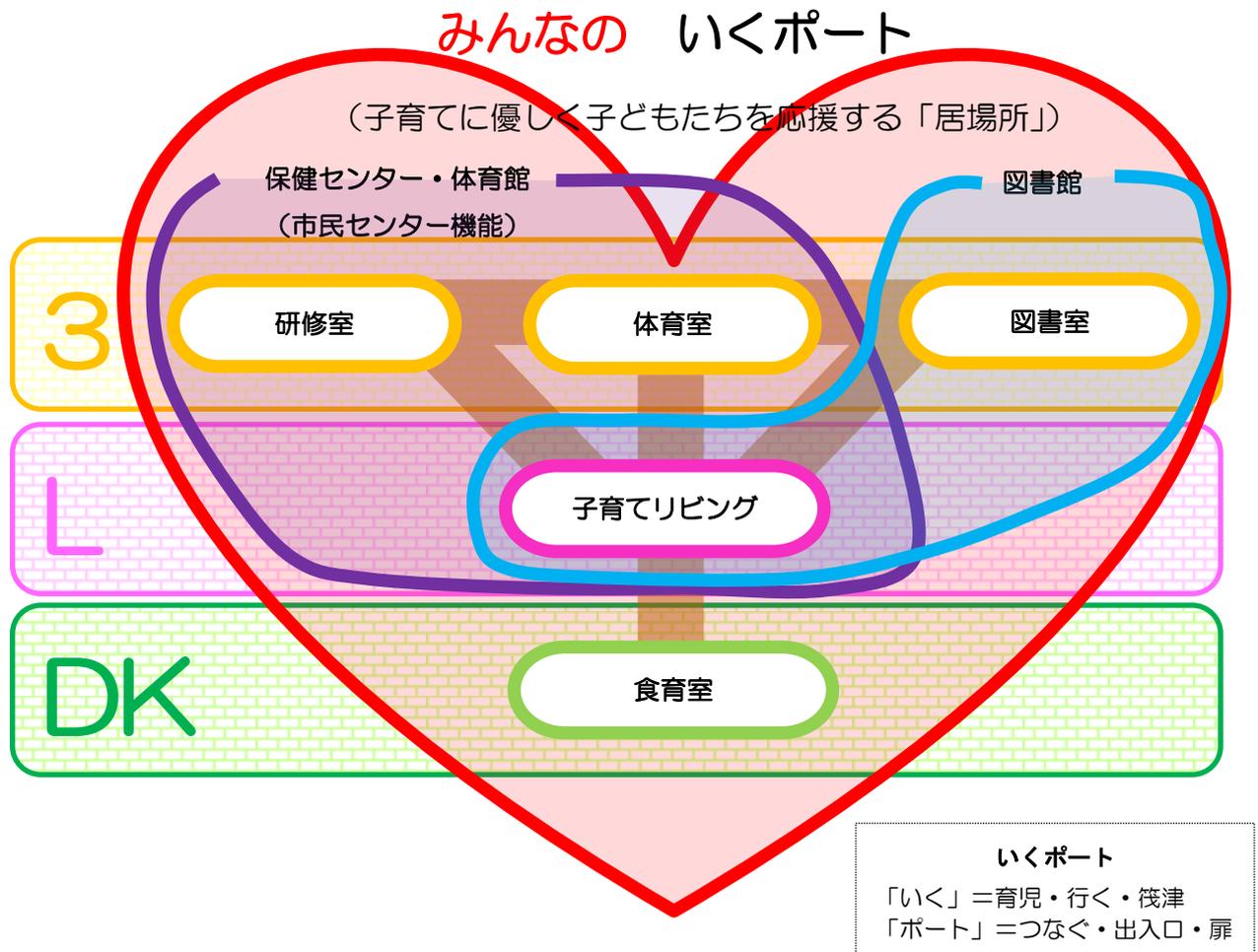
平成30年6月

廿日市市

## みんなの3LDKとは

いつでも気軽に利用できる我が家のような施設を目指します。

3つの室とリビング、キッチン（調理実習室・食育室）を備えた施設



○みんなのいくポート：施設全体で子育てを応援する施設としていく。また、食育の推進拠点として学校給食センターと連携し機能を発揮する。

## はじめに

公共施設が集積する筏津地区の施設について、大野市民センター、大野体育館は、大規模改修工事を行っているものの、老朽化と耐震性能不足が現状課題となっている。

大野体育館にいたっては、耐震化方針の基準である $Is$ 値 0.6 を大きく下回る、 $Is=0.05$  と本市公共施設中、最低の数値となっており、市としても建替えの意向を示している。また、大野市民センターについても $Is=0.44$  と基準を満たしておらず、耐震化と建替えの両面で検討していく必要がある。

現在の筏津地区の各施設の持つ機能のうち、研修室や会議室、事務所など重複するものが多く、非効率な施設群となっている。また、収支についても、支出に占める収入の割合は低く、持続可能な施設とは言いがたい状況にある。

こうした現状から、大野地域の公共施設の中心的役割を担う筏津地区の公共施設全体の再編に当たっては、事業経費や耐用年数（残存価値）等の資産価値についても考慮していくとともに、将来のまちづくりをイメージした再編に向け検討していく。

今回、ターゲットを子育て世代（親子）、児童生徒に絞り、ヒアリングやアンケート調査を実施した。そこから見えてきた筏津地区の施設群の課題として、子連れでの利用や子どもたちだけでの利用について各施設から敬遠されていることや、逆にターゲット自体が気兼ねや遠慮があり、そのことから、利用者層の幅が広がっていないということが分かってきた。

そこで、まずは、ターゲットが目的もなく、この場所を訪れ、交流の場となる「居場所」を創出することが大切であり、定住、人口維持の観点や子育て世帯が増加している状況からも、今、この世代を迎え入れる環境が重要と考える。

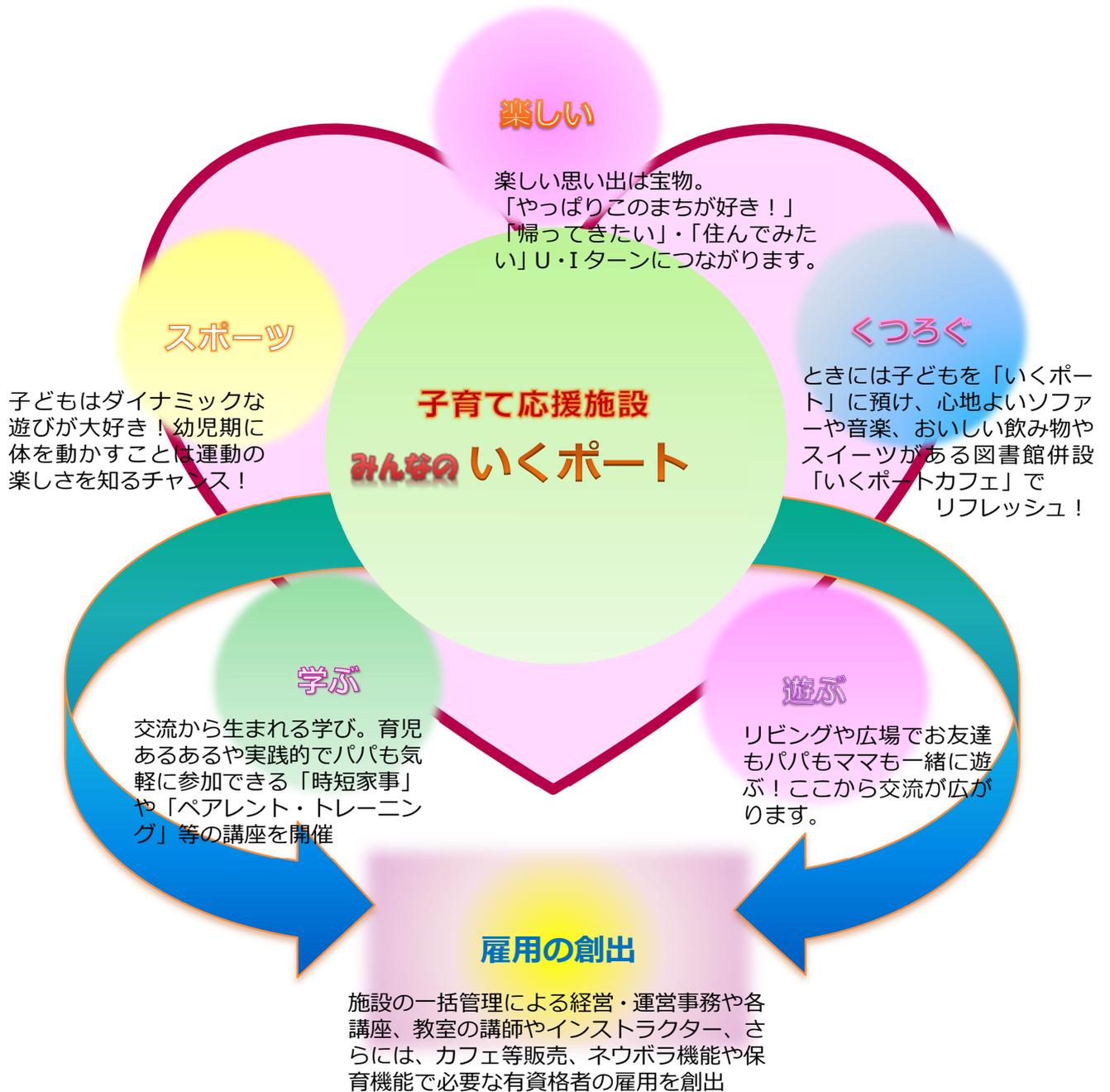
筏津地区公共施設再編整備に当たっては、各施設の機能や規模の効率化を図りながら、現在の利用者が継続して活動できるよう確保しながら、さらに「人とひとを結ぶ」新たな機能を整備するとともに、ターゲットを中心に幅広い市民のみなさんに愛され、利用し続けていただける施設を目指して検討を進めていくこととする。

## 《目次》

はじめに	1
目次	2
<b>こんな施設を目指します</b>	
「みんなの いくぼーと」のイメージ図	4
1 施設機能のイメージ（多機能施設を目指して）	5
<b>いま、なぜ、子育て応援施設が必要なのか</b>	
2 大野地域の現状・課題	6
（1）本市の人口の推移	6
（2）大野地域の人口の推移	7
（3）アンケートから見る課題やニーズ	8
① まちづくり市民アンケート	
② 子育てに関するアンケート調査	
③ 児童生徒アンケート結果・傾向	
④ 子育てサロン聞き取り結果	
⑤ 届いた声	
<b>ターゲットの絞り込み</b>	
3 整備に向けたターゲットの設定	14
<b>整備に当たって配慮すべきこと</b>	
4 本市の公共施設の役割の現状	15
5 市の計画や方針との整合	16
① 第6次廿日市市総合計画（H28.3）	
② まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10）	
③ 市有建築物耐震化方針（H20.9）	
④ 公共施設マネジメント基本方針（H29.3改定）	
⑤ 公共施設再編計画（第1期）（H27.6）	
⑥ 立地適正化計画（H30.3）	
⑦ 子ども・子育て支援事業計画（H27.3）	
<b>なぜ、筏津地区なのか</b>	
6 筏津地区の特徴	19
＜地区の利便性＞	
＜市民意識＞	
<b>周辺の公共施設等の現状</b>	
7 筏津地区の現状・課題	20
（1）施設の現状・課題	20
＜大野市民センター＞	
＜大野体育館＞	
＜大野図書館＞	
（2）筏津地区公共施設の共通課題	22
＜機能重複と非効率な運営＞	
＜駐車場の不足＞	
＜筏津地区周辺施設配置図＞	
<b>行政課題とニーズにどう対応するか</b>	
8 取り組むべき課題やニーズと整備の方向性	24

<施設の課題>	
<市民ニーズ>	
9 課題やニーズに対応した整備の基本的な考え方	25
(1) 安全の確保	25
(2) 施設の効率化	25
(3) 施設規模の考え方	26
(4) 子育て支援の充実	27
(5) 利便性の向上（駐車場の整備）	27
(6) 効率的・効果的な施設運営	28
<b>財産を有効活用する</b>	
10 土地活用策の検討	29
11 ゾーニング等の検討	30
(1) 筏津地区のゾーニング	30
(2) 「子育て・健康・文化ゾーン」の施設配置イメージの検討	30
<b>事業のスケジュールは</b>	
12 事業スケジュール	32
<b>財源を考える</b>	
13 財源の検討	33

## 笑っているパパやママが好き！



## 1 施設機能のイメージ（多機能施設を目指して）

多種多様なニーズにも応えることができるよう、これまでの施設ごとの利用形態から施設全体を一体的に利用する形態へと転換し、重複した機能（室）の解消を図るとともに、子育て世代をターゲットとした支援の充実を図り、誰でも気軽に利用できる環境を整え、新たな利用者層へ拡大していくことのできる「機能重視の施設」としていく。

### 生涯学習機能

#### ☆ 幅広いニーズに対応した魅力ある事業

- 《研修室》
  - ・会議室・研修室・視聴覚室・作業室・和室等
  - ・子ども図書室（児童生徒向け参考図書・マンガ）
- 《体育室》
  - ・大、小アリーナ
  - ・柔剣道場
- 《食育室》
  - ・調理実習コーナー
- 《子育てリビング》
  - ・シェアキッチン
  - ・ロビー【フリースペース】

### 子育て支援機能

#### ☆ 子育て世代の居場所

- 《子育てリビング》
  - ・子育て支援センター（屋内遊び場・遊具）
  - ・ネウボラ ・子育てサロン
  - ・託児室（一時保育）
  - ・屋外遊び場（屋外広場・遊具）
  - ・授乳室 ・子ども用トイレ（トレーニング）
  - ・シェアキッチン（乳幼児食等の簡単調理）
  - ・ロビー【フリースペース】
- 《研修室・子ども図書室》
  - ・子ども図書室（幼児用）

### スポーツ機能

#### ☆ 多様な利用で、心身ともに健康維持

- 《体育室》
  - ・大アリーナ
    - 【バレー×2面、バスケット×2面
    - バドミントン×6面】
  - ・小アリーナ【屋内自由遊びスペース
  - バドミントン×2面】
  - ・柔道場【1面】 ・剣道場【1面】
  - ・更衣室、シャワールーム
  - ・ロビー【フリースペース】
- 《研修室》
  - ・会議室、大会控え室

### 子ども応援機能（児童生徒）

#### ☆ 児童生徒の居場所

- 《体育室》
  - ・小アリーナ（自由遊びスペース）
  - ・屋外フィールド【自由広場】（3on3、スホー）
- 《研修室・子ども図書室》
  - ・子ども図書室（児童生徒向け参考図書・マンガ）
- 《子育てリビング》
  - ・ロビー【フリースペース】、ボルダリング

### 図書機能

#### ☆ 子ども連れでも気軽に利用できる環境

- 《研修室・子ども図書室》
  - ・子ども図書室（幼児向け・児童生徒向け参考図書
  - マンガ）
- 《子育てリビング》
  - ・ロビー【フリースペース・閲覧スペース】

### 食育機能

#### ☆ 給食センターと連携した食育の拠点

- 《食育室》
  - ・調理実習コーナー
  - ・給食センター（連携事業）
- 《子育てリビング》
  - ・シェアキッチン
  - ・ロビー【フリースペース】

### ロビーホール機能

#### ☆ イベント、音楽祭、講演会で活用

- 《子育てリビング》
  - ・ロビー【フリースペース】
  - ・ロビーホール（ロビーイベント）

### 保健機能

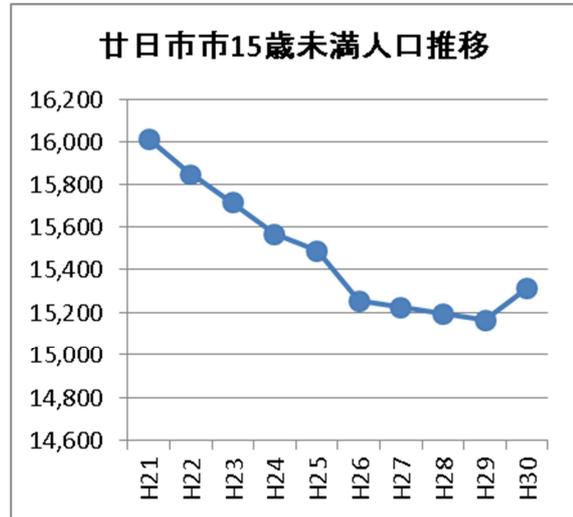
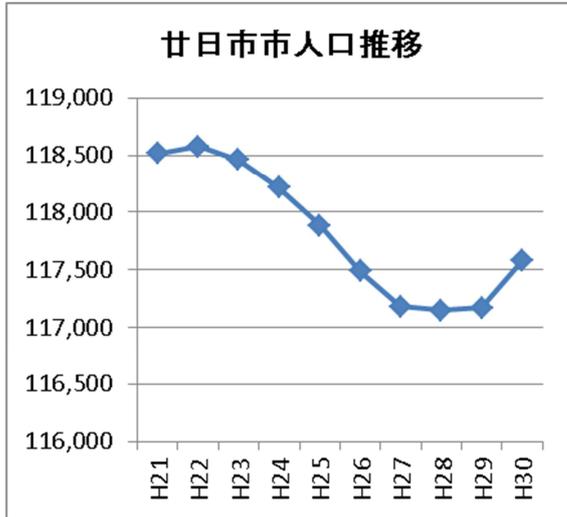
#### ☆ 乳幼児健診、健康増進で福祉の拠点

- 《研修室》
  - ・会議室、研修室（健診会場・育児相談会場等）
- 《体育室》
  - ・大、小アリーナ（健診会場等）
- 《子育てリビング》
  - ・ロビー【フリースペース】

## 2 大野地域の現状・課題

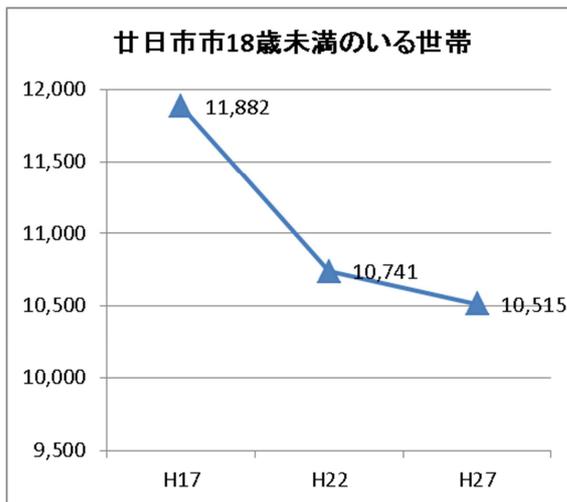
### (1) 本市の人口の推移

本市の人口は、平成17年の合併以降も減少傾向にあったが、平成29年には増加傾向に転じ、平成26年人口まで回復している。これは、大野地域の人口増加も追い風となったものと推測され、平成29年から平成30年の1年間で、市域全体で413人、15歳未満人口についても148人の増加となっている。



※人口の基準日は、各年3月1日現在

総務省統計局が実施した国勢調査報告では、本市の18歳未満一般世帯員のいる一般世帯数は、平成17年調査と平成27年調査を比較すると、1,367世帯の減少となっており、人口減少とともに、子育て世帯も減少傾向にある。

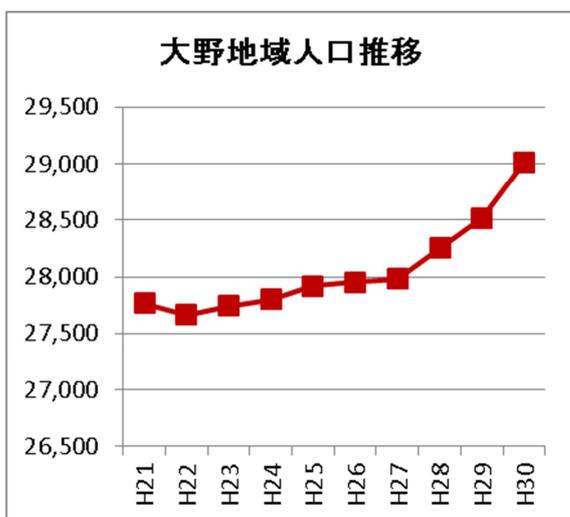


※各年10月1日現在（国勢調査報告）

## (2) 大野地域の人口の推移

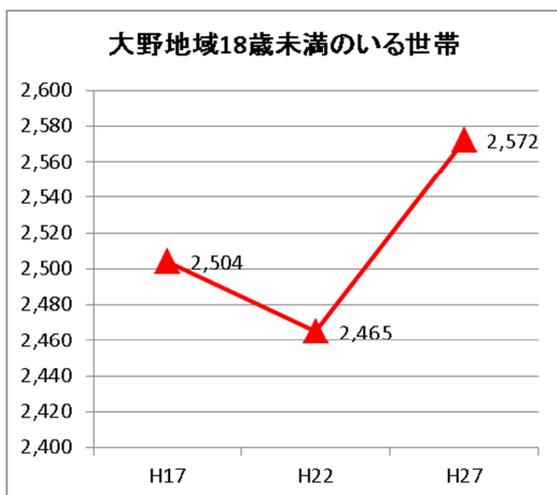
大野地域の人口は、市街化区域内の中部から東部にかけてのミニ開発が進んだことを要因として増加の傾向にある。また、住宅の販売価格帯からも子育て世代が購入しやすい価格設定となっていることから推測すると、そのほとんどが子育て世帯のみの世帯と考えられ、子育て世代の増加へとつながっており、15歳未満人口についても、増加傾向である。

平成29年から平成30年の1年間では、大野地域の人口は489人の増加となっている。また、15歳未満人口についても112人の増加となっている。増加傾向に転じた平成22年からの推移は、1,343人の増加で、15歳未満人口についても平成23年から284人の増加となっている。



※人口の基準日は、各年3月1日現在

18歳未満のいる世帯についても、平成22年からV字回復し、107世帯の増加となっており、子育て世代が増加していることが伺え、本市の中でも、子育て世代に選ばれている地域であると言える。



※各年10月1日現在（国勢調査報告）

(3) アンケートから見る課題やニーズ

① まちづくり市民アンケート

平成 29 年度に実施した「まちづくり市民アンケート」では、市の施策に対する「満足度」や「重要度」から市民の「ニーズ度」を数値化し、評価している。

全体的には、災害への対応が上位となっているが、地域での生活環境や普段の生活の中における利便性、生きがいづくりなど、豊かな生活を過ごすためのニーズや子どもの健やかな育ち、安全な遊び場などのニーズも高いことが分かる。こうしたニーズの中で、筏津地区が担うことができる施策について検討していく必要がある。

その他高齢者の福祉サービスの充実や渋滞対策、医療体制や救急体制の充実による安心な体制づくり、教育の充実、自然環境の保護などさまざまな項目が挙げられている。

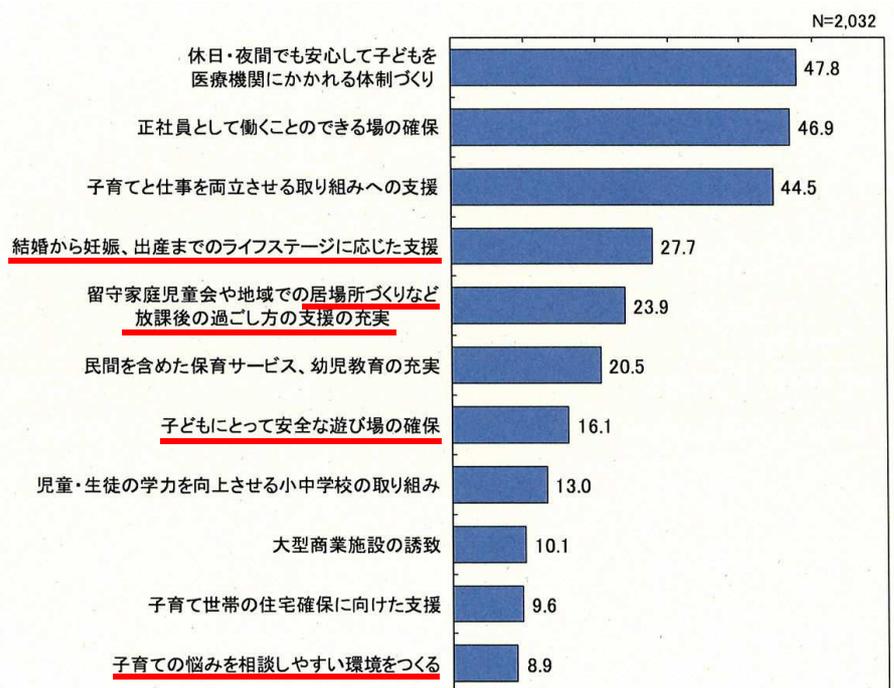
表 10 満足度・重要度・ニーズ度(全市)

順位	凡例	項目	満足度		重要度		ニーズ度	分類
			満足度	順位	重要度	順位		
1位	31	安全で快適に利用できる身近な道路や歩道の整備(バリアフリーの状況)	2.61	49位	4.23	13位	1.62	A
2位	41	渋滞が起こりにくく周辺地域や市内の移動をスムーズにする幹線道路の整備	2.58	51位	4.16	17位	1.58	A
3位	18	地震・風水害などの災害対策	2.94	26位	4.48	3位	1.54	A
4位	12	介護保険サービスなど高齢者や家族の生活を支える高齢者福祉サービス	2.93	29位	4.43	4位	1.50	A
5位	44	市民の移動手段や活動機会を確保する路線バスやコミュニティバスの利便性	2.65	47位	4.13	20位	1.47	A
6位	10	医療機関や救急医療体制の充実など安心して生活できる体制づくり	3.09	8位	4.49	2位	1.40	B
7位	19	防犯や交通安全に向けた取り組み	2.97	23位	4.37	7位	1.40	B
8位	11	保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくり	3.00	18位	4.40	6位	1.40	B
9位	29	まちの持続的な発展を支える安定した働く場所の状況	2.73	45位	4.12	21位	1.39	A
10位	34	快適な環境を維持し、浸水被害を未然に防止する下水道の整備	2.98	21位	4.35	8位	1.37	B
11位	14	障がい者の自立支援や福祉サービスなど障がい者が地域で安心して暮らすための環境づくり	2.89	37位	4.24	12位	1.35	A
12位	6	確かな学力とたくましく生きる力を育む学校教育体制・内容の充実	2.96	25位	4.30	10位	1.34	B
13位	32	安全に子どもが遊べる環境や利用しやすい公園の整備	2.77	44位	4.11	22位	1.33	A
14位	21	木造住宅の耐震化促進や空き家の解消など住宅の安全対策に向けた取り組み	2.63	48位	3.95	30位	1.32	D
15位	9	市民が健康に生活できるための支援	3.00	19位	4.28	11位	1.28	B
16位	5	学校施設の整備による安心・安全な教育環境の確保	3.05	12位	4.33	9位	1.28	B
17位	22	海、川、山などの自然環境の保全状況とその取り組み	2.85	40位	4.09	23位	1.25	A
18位	15	生活の安定と自立を促進するひとり親家庭などへの支援	2.83	41位	4.08	25位	1.25	A
19位	38	安全で快適な市街地の整備	2.90	34位	4.14	18位	1.24	A
20位	23	省資源・省エネルギーの促進など低炭素型社会の形成に向けた地球温暖化防止への取り組み	2.82	42位	4.06	26位	1.24	A
21位	16	低所得者への支援	2.66	46位	3.89	34位	1.23	D
22位	13	地域福祉体制の確立など地域で互いに支えあう体制づくり	2.91	33位	4.09	24位	1.18	A
23位	42	駅前広場やアクセス道路の整備などJR駅・広電駅周辺整備による鉄道の利便性	3.04	14位	4.20	16位	1.16	B
24位	3	青少年の健全育成に向けた活動の場や機会の提供	2.92	30位	4.06	27位	1.14	A
25位	1	一人ひとりを大切にする人権が保障された社会づくり	3.07	11位	4.20	15位	1.13	B
26位	24	ごみの発生抑制・再利用・再資源化による循環型社会づくり	3.10	6位	4.21	14位	1.10	B
27位	37	適正な規制や誘導に基づく計画的なまちづくり	2.82	43位	3.90	33位	1.09	D
28位	17	消防・救急体制の充実	3.44	1位	4.52	1位	1.08	B
29位	33	安全で良質な水を供給する上水道の整備	3.37	2位	4.42	5位	1.06	B
30位	20	相談窓口など消費者の支援体制の充実	2.96	24位	4.01	28位	1.05	C
31位	43	ノーカーデー、パークアンドライドが実践できる環境整備	2.59	50位	3.58	49位	0.99	D
32位	50	支所機能の充実	3.01	15位	3.99	29位	0.97	C
33位	2	家庭・地域・職場などあらゆる分野において男女が共同して参画する社会づくり	2.99	20位	3.95	31位	0.96	C
34位	49	窓口での内容に応じた適切な職員の対応	3.18	4位	4.14	19位	0.96	B
35位	25	特色ある農水産物の生産支援や地産地消の取り組み	3.01	16位	3.94	32位	0.93	C
36位	47	市民と行政の協働のまちづくり	2.90	35位	3.81	40位	0.91	D
37位	4	生涯学習への支援や学習機会の提供による市民がいつでも学べる環境づくり	2.98	22位	3.87	36位	0.89	C

表 15 満足度・重要度・ニーズ度(大野地域)

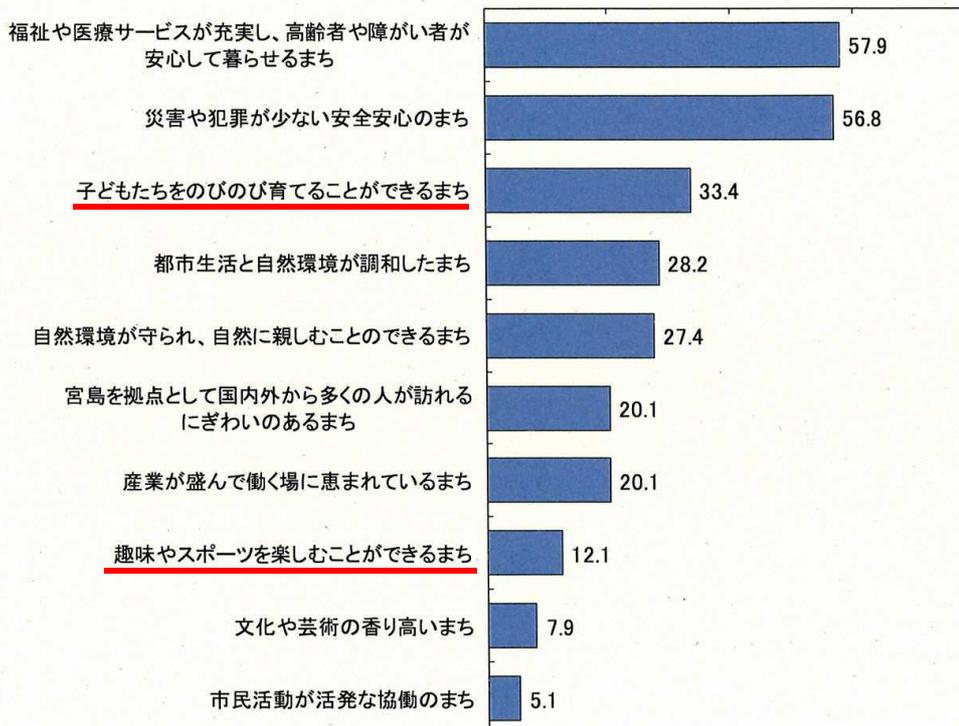
順位	凡例	項目	満足度		重要度		ニーズ度	分類
			満足度	順位	重要度	順位		
1位	41	渋滞が起こりにくく周辺地域や市内の移動をスムーズにする幹線道路の整備	2.29	51位	4.23	11位	1.93	A
2位	44	市民の移動手段や活動機会を確保する路線バスやコミュニティバスの利便性	2.48	50位	4.20	15位	1.72	A
3位	31	安全で快適に利用できる身近な道路や歩道の整備(バリアフリーの状況)	2.52	47位	4.18	18位	1.66	A
4位	18	地震・風水害などの災害対策	2.83	29位	4.46	3位	1.63	A
5位	10	医療機関や救急医療体制の充実など安心して生活できる体制づくり	2.89	22位	4.47	2位	1.58	B
6位	12	介護保険サービスなど高齢者や家族の生活を支える高齢者福祉サービス	2.88	23位	4.41	4位	1.53	B
7位	29	まちの持続的な発展を支える安定した働く場所の状況	2.55	46位	4.07	24位	1.53	A
8位	19	防犯や交通安全に向けた取り組み	2.90	20位	4.36	6位	1.47	B
9位	34	快適な環境を維持し、浸水被害を未然に防止する下水道の整備	2.91	17位	4.36	7位	1.46	B
10位	11	保育や子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくり	2.93	13位	4.36	8位	1.43	B
11位	14	障がい者の自立支援や福祉サービスなど障がい者が地域で安心して暮らすための環境づくり	2.81	35位	4.22	12位	1.41	A
12位	42	駅前広場やアクセス道路の整備などJR駅・広電駅周辺整備による鉄道の利便性	2.83	27位	4.22	13位	1.39	A
13位	22	海、川、山などの自然環境の保全状況とその取り組み	2.74	39位	4.10	20位	1.36	A
14位	32	安全に子どもが遊べる環境や利用しやすい公園の整備	2.71	41位	4.07	25位	1.36	A
15位	21	木造住宅の耐震化促進や空き家の解消など住宅の安全対策に向けた取り組み	2.51	48位	3.87	34位	1.35	D
16位	6	確かな学力とたくましく生きる力を育む学校教育体制・内容の充実	2.94	11位	4.27	10位	1.33	B
17位	9	市民が健康に生活できるための支援	2.90	19位	4.21	14位	1.32	B
18位	38	安全で快適な市街地の整備	2.79	36位	4.10	19位	1.31	A
19位	23	省資源・省エネルギーの促進など低炭素型社会の形成に向けた地球温暖化防止への取り組み	2.73	40位	4.03	27位	1.30	A
20位	16	低所得者への支援	2.57	45位	3.85	36位	1.28	D
21位	50	支所機能の充実	2.81	33位	4.08	23位	1.26	A
22位	13	地域福祉体制の確立など地域でお互いに支えあう体制づくり	2.87	25位	4.10	21位	1.23	B
23位	15	生活の安定と自立を促進するひとり親家庭などへの支援	2.79	37位	4.02	28位	1.23	A
24位	37	適正な規制や誘導に基づく計画的なまちづくり	2.70	43位	3.92	30位	1.23	D
25位	1	一人ひとりを大切にすること人権が保障された社会づくり	3.00	7位	4.18	17位	1.18	B
26位	24	ごみの発生抑制・再利用・再資源化による循環型社会づくり	3.03	6位	4.20	16位	1.17	B
27位	5	学校施設の整備による安心・安全な教育環境の確保	3.13	3位	4.29	9位	1.16	B
28位	3	青少年の健全育成に向けた活動の場や機会の提供	2.89	21位	4.05	26位	1.15	B

「廿日市市に住みたい、または住み続けたいと思うようには、どのような施策が重要だと思いますか。」という問いに対して、安心のための医療体制や働く場の確保等に次いで、「結婚から妊娠、出産までのライフステージに応じた支援」や子どもの「地域での居場所づくり、放課後の過ごし方」「子どもにとって安全な遊び場の確保」が挙げられている。



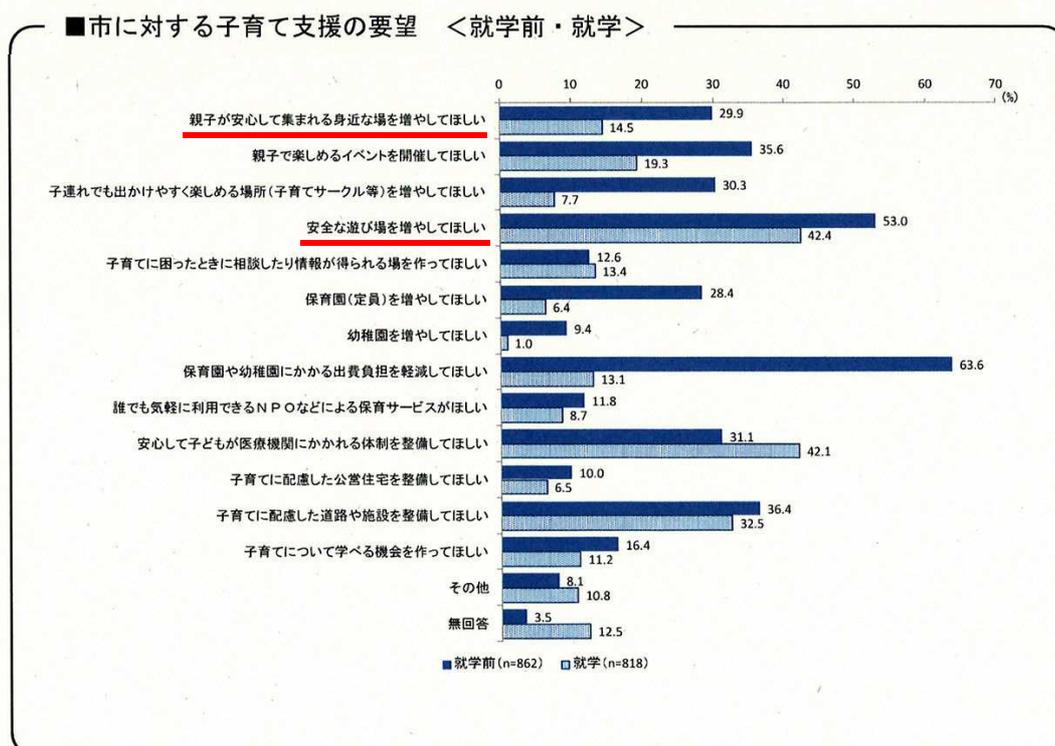
また、「これからの廿日市市が目指すべきまちのイメージ」についても、安心安全なまちに次いで、「子どもたちをのびのび育てることができるまち」が挙げられている。

その他「趣味やスポーツを楽しむことができるまち」も挙げられた。 N=2,032

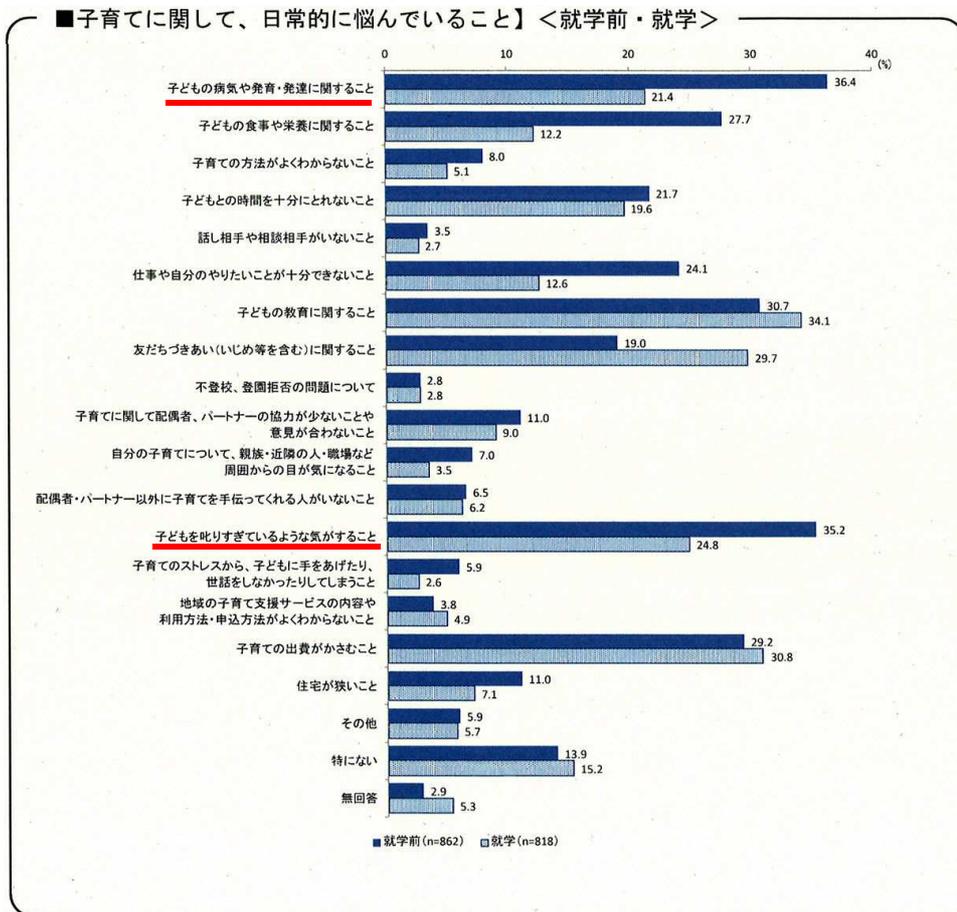


## ② 子育てに関するアンケート調査

平成 27 年に策定した「子ども・子育て支援事業計画」のアンケート結果の中では、子育て支援に対する要望として一番多かったのは出費負担の軽減であったが、次いで多かったのは、「安全な遊び場を増やしてほしい」や「親子が安心して集まれる身近な場を増やしてほしい」という要望であった。



また、日常的に悩んでいることは、「子どもの病気や発育・発達に関すること」や「子どもを叱りすぎているような気がする」と回答した方の割合が高かった。その他「子どもの教育」「子どもの食事や栄養」など、子どもの育ち、育て方に関する悩みを抱えた方が多い結果であった。



計画では、こうしたニーズに対応していくため、基本目標で「子どもの育ちと子育て家庭を応援する」ため、出生前から青年期まで子どもと子育て家庭を切れ目なく支援することや「地域力で子育てを支える」ため、相談体制の充実、強化など、地域全体で子どもと子育て家庭を暖かく見守り、支えあうまちづくりを進めることとされている。

また、大野地域、そしてこの筏津地区に求められているものは何かを探るため、小中学生へのアンケート、子育てサロンでのヒアリングを行った。

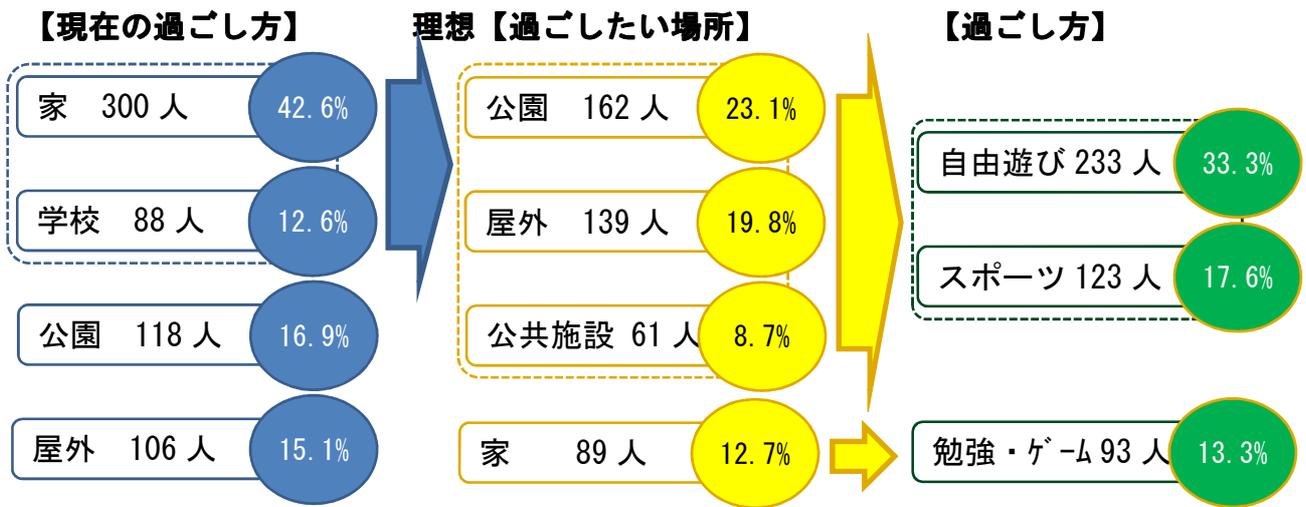
アンケートについては、大野地域の小中学校（小学3・6年生、中学3年生）の児童生徒705人、ヒアリングについては、地域の子育てサロン4箇所子育て中のお母さん25人から、現在の「過ごし方」や「過ごし方の希望」などについて意見を聞いた。

全体的には、筏津地区に「受け皿があれば、訪れ、利用したい。」という意向が確認できたと考える。

### ③ 児童生徒アンケート結果・傾向

児童生徒には、「現在の過ごし方」と「理想とする過ごし方」について聞いた。現状では「家」「学校(児童会等)」が圧倒的に多かったが、理想としては、「公園」や

「屋外」などでスポーツなど自由に遊ぶことができる場所を求めているという結果となった。



#### ④ 子育てサロン聞取り結果

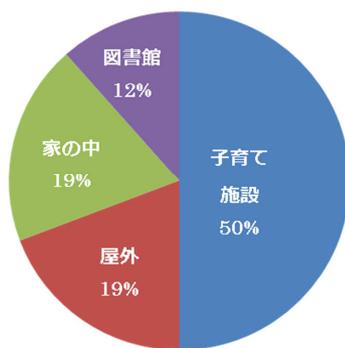
サロンを利用しているほとんどの母親は、親子の交流や遊び場などの居場所を求め、子育て関連施設を探して転々と利用している。

多くの母親は、子どもと一緒に過ごせる場所やイベント、講座への参加を希望しており、これらを通して、一層の交流や居場所を求めていることが分かった。

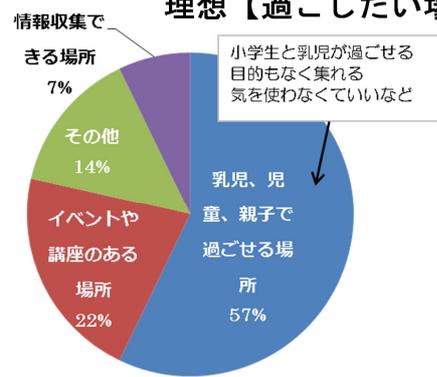
しかし実際には、交通手段や周りへの遠慮から、居場所がなく、限られた場所や空間でしか過ごすことができている状況も見受けられた。

今回のヒアリングから、約6割の母親達は『気を使わず親子で過ごせ、目的もなく集れる居場所』を求めていることも分かった。

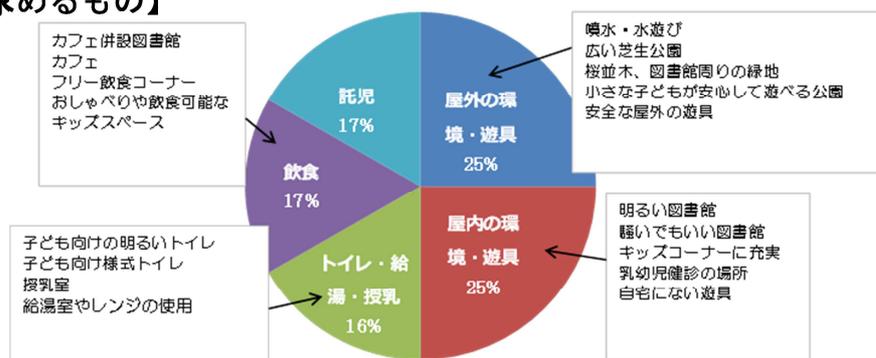
#### 【現在の過ごし方】



#### 理想【過ごしたい場所】



#### 【後津へ求めるもの】



## ⑤ 届いた声

現在の市民センターや図書館、体育館等の利用拡大に向けて、子育て世代や児童生徒に行った調査結果から見えてきたものは、子連れでの利用や子どもたちだけでの利用について、各施設から敬遠されていることや逆にターゲット自体が気兼ねや遠慮があり、利用層の幅が広がっていないと推測される。

課題・ニーズ		
項目	子育て世代（子育て親子）	児童生徒
受入環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>子連れだと気兼ねで利用できない</li> <li>子育てに関する相談体制もなく、利用する目的がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちょっとしたことですぐに注意され、居心地が悪い</li> <li>いつも大人が利用していて利用しづらい（空きがない）</li> <li>色々な悩みを相談できる場所がない</li> </ul>
ハコモノ	<ul style="list-style-type: none"> <li>授乳室や子どもの遊び場、子ども用のトイレ、子どもと飲食できる場所などなく子連れでは利用しづらい</li> <li>お母さん同士での居場所がない</li> <li>ミルクや離乳食を温めたり、簡単な調理ができる設備があれば利用しやすくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に利用できる場所がない（手続きが面倒）</li> <li>色々なスポーツや遊び・体験できる場所がない</li> <li>友だち同士での居場所、スペースがない</li> </ul>
交通機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハートバスのルートやダイヤが利用しづらい</li> <li>運賃が家計の負担となり、利用を控えている</li> <li>家の近くにバス停がなく利用しづらい</li> <li>ベビーカーでは利用しづらい（低床）</li> </ul>	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に音楽やダンスなどを練習したり発表することができる場所がほしい</li> <li>自由に勉強したり、友だちとおしゃべりできる場所がほしい</li> </ul>

筏津地区に集積している公共施設である市民センターや図書館、体育館の機能を活用し、こうした市民ニーズや課題に対応することができるものは何なのか。これらの施設の機能を通じて、これまでの生涯学習やスポーツ活動の機会や場の提供、健康に生活するための支援に加え、ニーズの上位に位置する「子育ての支援など子どもが健やかに育つ環境づくり」（第8位）や「安全に子どもが遊べる環境や利用しやすい公園の整備」（第13位）、「青少年の健全育成に向けた活動の場や機会の提供」（第24位）、さらに、小中学生へのアンケートや子育てサロンでのヒアリングで得た、「子どもたちや子育て親子の居場所づくり」へのニーズ、「気軽に利用できる施設」など、子育て世代への支援や子どもたちを応援する場や環境の整備が強く求められていることが分かってきた。

こうした課題やニーズに対応した施策について検討を進めていくことにより、筏津地区が市民にとって大切な拠点として親しまれ、愛される地区になるものと考えます。

そして、結果として、市民が「住みたい、住み続けたいまち」となり、市民が求める「目指すべきまちのイメージ」に近づけるものと考えます。

### 3 整備に向けたターゲットの設定

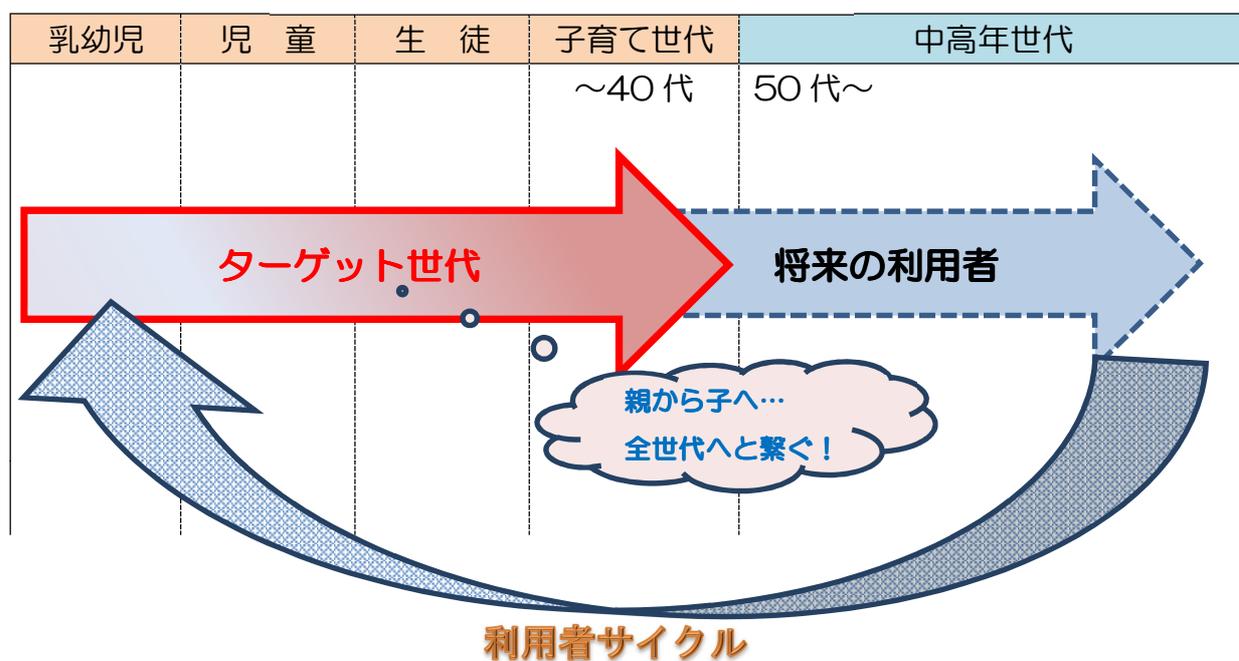
大野地域は、人口や15歳未満の人口、さらに、18歳未満の児童生徒がいる世帯についても増加傾向にあり、子育て世帯が増加しているものの、子育て世代や子どもたちが集う場所は少ない。また、アンケート結果においても、子育て世代の居場所が求められている。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、「まち全体で子どもを育て、子育て家族が安心して暮らせるまちをつくる」ことを目指しており、筏津地区の公共施設の再編整備に当たっては、ターゲットを「子育て世代」「児童生徒」と定め、各施設の機能等の整備を進めていく。

そして、子どもたちや子育て世代がやがて大人となり中高年世代となり、多様な形で再びこの施設に戻ってくる。そんな世代を超えたバリアフリーを実現し、利用者サイクルを創出していく。

## 子育て世代・児童生徒

～世代を超えたバリアフリー～



#### 4 本市の公共施設の役割の現状

本市の公共施設の中で、市民活動の場に供される主な公共施設の利用状況を見てみると、「さくらびあ」や「サンチェリー」など廿日市地域を中心として整備された施設は、市域全体の市民活動の場として、さらに、市の中心的、代表的施設として、世界イベントや全国大会を呼び込み、**市をPRする役割**と、各地域に点在する施設については、地域特性を生かしながら、**地域住民の地域活動を支える役割**を担う施設に大別される。

こうしたことから、筏津地区の公共施設の存在は、大野地域の市民の地域活動を支え、豊かさを感じながら住み続けていただくために欠かせない、重要な役割を担っている。

### 交 流から知ってもらう

吉和

- 吉和地域の地域活動を支える
- 体験活動を通して入込交流から地域を知ってもらう

吉和福祉センター



吉和魅惑の里



### 定 住を促す

佐伯

- 佐伯、吉和地域の地域活動を支える
- 交流人口、賑わいを誘導、創出する

さいき文化ホール（図書館）



佐伯総合スポーツ公園

### PR 市を売り出す

- 市全域（広域）及び廿日市地域の地域活動を支える
- 全国イベントなどを誘導し市をPRする

廿日市

さくらびあ



サッカー場



あいプラザ

サンチェリー



### 住 み続けたいまち

大野

- 大野地域の地域活動を支える
- 地域の交流、賑わいを創出する



大野体育館



大野市民センター



大野福祉保健センター



大野図書館

宮島

### 観 光からまちをPR

- 観光交流を推進する
- 魅力を発信する



宮島包ヶ浦自然公園



みやじまん工房

## 5 市の計画や方針との整合

筏津地区の公共施設の再編に当たっては、市の計画や方針等との整合を図っていく必要がある。

### ① 第6次廿日市市総合計画（H28.3）

#### <方向性2「人を育む」>

○子どもを健やかでたくましく育むまち

- ・子育て世代の望む子育て、教育環境整備に努める。
- ・結婚から妊娠、出産、子育てまで、ライフステージに応じた支援を行うことで、安心して子育てできる環境を整える。

○ふるさとへの誇りや愛着を育むまち

- ・ふるさとに愛着を持つ子どもを育てる。

### ② まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10）

#### <大切にする視点>

○まち全体で子どもを育て、子育て家族が安心して暮らせるまちをつくる。

#### <基本目標>

○子育て世代に選ばれ続ける「そこ！」が大事

（基本的方向）

- ・結婚から子育てまで、一連のライフステージに応じた切れ目のない支援を行う。
- ・地域のつながりや家族の支えにより、安心して子育てができる環境を整える。
- ・子どもたちの健やかな成長をまち全体で支える。

### ③ 市有建築物耐震化方針（H20.9）

#### <耐震基準>

○新耐震基準レベルの  $I_s$  値（構造耐震指標）0.6 以上を確保する。

### ④ 公共施設マネジメント基本方針（H29.3 改訂）

#### <全体基本方針>

- 総量の適正化：社会ニーズの変化への対応を考慮した計画を推進し、総量の適正化に取り組む。（統廃合・複合化・適正供給）
- 長寿命化の推進：施設の点検・診断の実施を行い、予防保全や耐震化に努め、安全確保をしつつ長寿命化の推進に取り組む。
- 効率的かつ効果的な管理運営：管理運営については、民間活力の活用、効果的な資産活用、広域的連携も視野に取り組む。

## ⑤ 公共施設再編計画（第1期）（H27.6）

### 基本的な考え方

機能に着目・利便性の高い立地・多機能や複合化

＜総延べ床面積の縮減＞

### 今後40年間で総延べ床面積約50万㎡のうち、10万㎡（約2割）を縮減

- 原則として、新たな公共施設は建設しない。
- 集約化や統廃合を進め、総延べ床面積を縮減する。
- 新たに建設する場合は、規模の縮小化、又は公共施設を同面積以上廃止する。

＜機能を重視した再配置＞

- 市民とともに検討し、施設の機能を中心に考える。
- 地域特性や時代（市民）のニーズを考慮した再配置を行う。

＜資産の有効活用＞

- 公共施設の貸付等について検討する。
- 統廃合によって生じた跡地等の売却について検討する。
- 生じた財源を施設の維持更新、機能の充実に充当する。

＜効率的・効果的な管理運営＞

- 利用率や稼働率の向上に努める。
- 民間活力を活用する。
- 受益者負担の適正化を推進する。

＜一元的なマネジメント＞

- 全体最適の視点による活用戦略を策定する。
- 長期的な施設更新の課題解決を図る。

## ⑥ 拠点の形成による持続可能なまちづくり計画（立地適正化計画）（H30.3）

＜大野地域拠点（大野地区拠点①）＞

計画では、「医療・福祉・商業等の都市機能の立地を維持・誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域」として、大野地域の公共施設集積地区である筏津地区を「都市機能誘導区域」に設定し、地域住民の利用を対象とした拠点として「地域拠点」に設定している。また、大野図書館や大野体育館、福祉保健センターを「都市機能誘導施設」として設定している。

＜基本目標＞

- 地域の特性等を活かした拠点設定
- 拠点の役割に応じた都市機能誘導区域、誘導施設の設定
- 市街地内及び拠点間のネットワークの形成

＜重点目標＞

- 市の課題となっている20歳代、30歳代の就職・新婚層のニーズに応え、人口を定着させるため、子育て支援機能の維持・強化を図る。
- 就職、新婚層の居住場所の確保も合わせて進める。
- 多極ネットワーク型コンパクトシティの形成

## ① 子ども・子育て支援事業計画（H27.3）

### ＜将来像＞ 「つながり支えあう 子育てのまち はつかいち」

○子どもが心豊に成長し、いきいきと暮らせる社会、親が子どもを安心して生み育てることができる社会、未来の廿日市市の担い手を育てるため社会全体で応援する社会を目指す。

### ＜基本目標＞

○教育・保育サービスを充実させる

・子どもが生活や遊びなどさまざまな体験を通じて、人間として生きるための基本的な力を身に付ける。

○子どもの育ちと子育て家庭を応援する

・廿日市市に住んでよかったと思えるように、出生前から青年期まで子どもと子育て家庭を切れ目なく支援する。

○地域力で子育てを支える

・地域、事業者、行政などの全ての人々が子どもの健やかな成長の実現という目的を共有する。

### 計画の推進主体とそれぞれの役割

#### 行政

地域、事業者など子育て支援にかかわるすべての関係者・関係機関と協働して、子育て支援を総合的に推進します。それぞれの家庭や子どもの状況に応じ、妊娠・出産期から子どもが成長するまで切れ目なく支援し、子育て支援サービス全体の質の向上を図ります。

#### 地域

地域における世代間交流の輪を広げ、気軽にあいさつを交わすなど地域の子どもと子育て家庭にあたたかく接しましょう。



#### 家庭 (保護者)

家庭は保育の原点です。周りの保護者や地域の人々とつながりを持ち、地域社会に参画、連携しながら子どもたちを育てましょう。

#### 企業

子育て中の労働者が、ワーク・ライフ・バランスを図ることができるよう、長時間労働の是正や労働者自身の希望に応じた育児休業、短時間勤務を取得しやすい環境づくりに努めましょう。



## 6 筏津地区の特徴

### <地区の利便性>

筏津地区は、大野地域の中心に位置し、大野地域を縦断する市道地御前対巖山線・深江林ヶ原線・林ヶ原鳴川線や国道2号からのアクセスもよく、地域内でも利便性の高い地区といえる。また、大野地域全域をカバーする大野ハートバスの結節点となっており、平日で上り方面25便、下り方面26便、土日祝日においても上り方面16便、下り方面17便が発着する地区として、公共交通機関の利便性も高い地区といえる。

さらに、山陽自動車道の大野ICから5分程度で、JR前空駅、大野浦駅から約2kmの徒歩圏内であり、広域からの利用についても利便性が高いといえる。

現在、計画段階である都市計画道路筏津郷線が開通すれば、中央区画整理内の県道栗谷大野線からのアクセスも向上し、より利便性の高い地区となる一方で、計画道路幅員に現在の駐車場敷地が含まれているため、土地利用の制限となる課題もあり、より効率的な土地利用をしようとするれば、一定の調整が必要となる。



### <市民意識>

ここ筏津地区では、文化祭、市民センターまつりなどの文化イベント、マラソン大会やソフトバレーボール大会、バドミントン大会、バウンドテニス大会などのスポーツイベント、健康福祉フェスタ、ときめきフェスタなど、多くの市民が集う各種イベントが多く行われ、大野地域の市民にとって、賑わいの拠点地区として広く認識されている。

こうしたことから、この筏津地区に市民が集う公共施設の集積は有効であり、現在利用されていない市民を誘導する施設や仕掛け、サービスを提供し、より魅力を創出することにより、一層の利用者層の拡がり期待でき、地域全体の賑わい、地域の活性化につながるものとなる。

7 筏津地区の現状や課題

(1) 施設の現状・課題

＜大野市民センター＞

「大野市民センター」は、昭和 49 年度に整備され築 43 年が経過している。

平成 7 年 5 月に大規模改修は施したものの、老朽化は進み、耐震性能については Is 値 0.44 と市の耐震基準を満たしていない。

施設面積等は、RC 構造 3 階建て 2,083 m<sup>2</sup>で、機能としては、研修室や調理実習室、作業室、会議室などが配置され、市民センターとして運営されているが、市民意識の中では従来の公民館としての認識が高く、生涯学習を中心とした活動の場となっている。

利用状況は、約 35,000 人／年で稼働率は 25%程度となっている。

なお、現在整備が進められている（仮）大野東市民センター整備後においては、2 割程度の利用団体が移行の意思を示されている。

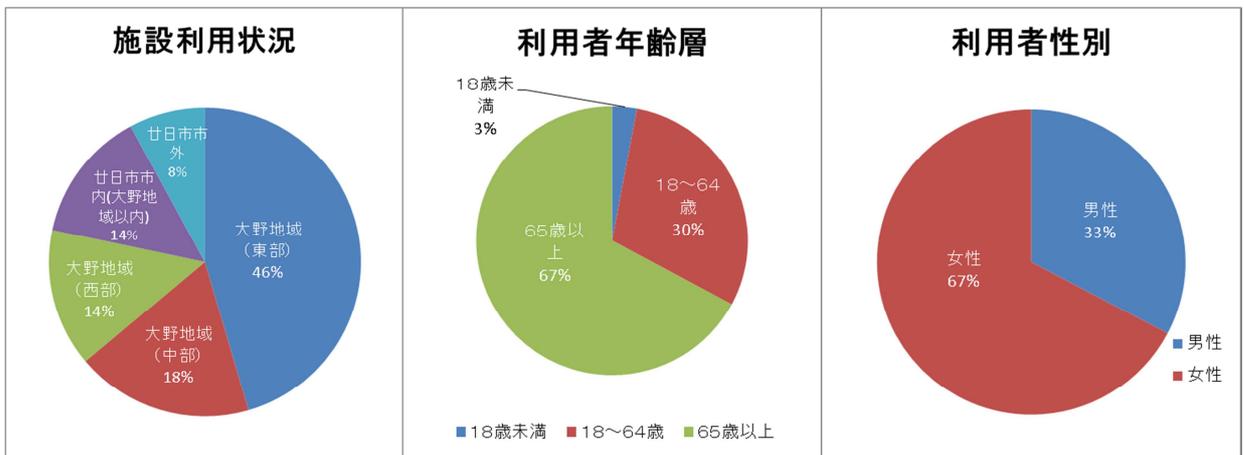
運営状況については、使用料等の収入 1,460 千円に対し、支出経費は 21,060 千円と収入割合は 6.93%と低く、持続可能な公共施設とはいいがたい状況にある。

整備手法については、平成 28 年度に耐震化・リニューアル工事を行った平良市民センターの工事単価(337 千円/m<sup>2</sup>)で耐震化整備事業費を試算すると 702 百万円で、建替え整備 (1,500 m<sup>2</sup>) では 633 百万円 (解体を含む) と試算するが、耐震化、施設の複合化も踏まえながら整備手法について検討する必要がある。

建築年月 (経過年数)	構造	延べ床 面積	耐震性 (Is 値)	利用形態	配置機能		
S49.7 (43 年)	RC 造 3F 建て	2,083 m <sup>2</sup>	0.44	公民館 (文化活動)	作業室・調理実習室・視聴覚室・研修室 ×3・会議室×5・事務室・ロビー等		
職員配置数		運営方式	利用者数 (稼働率)	収入	支出	収入 割合	更新経費 (更新年度)
正規：1 人 非常勤：1 人 臨時：2 人		直営	34,926 人 (25%)	1,460 千円	21,060 千円	6.93%	830 百万円 (H46)

※「更新経費」は、(財)自治総合センターが公表した「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」の試算方式により算出(以下同じ。)

(参考) 大野市民センター：250 人／2 週



東部：1 区～4 区  
中部：5 区～7 区  
西部：8 区～11 区

## <大野体育館>

「大野体育館」は、昭和 52 年度に整備され築 40 年が経過している。

平成 6 年 3 月に大規模改修は施したものの、老朽化は進み、耐震性能については Is 値 0.05 と本市の公共施設（耐震診断実施施設）の中、最低の数値となっている。

施設面積等は、SRC 構造 2 階建て 4,515 m<sup>2</sup>で、機能としては、主競技場や柔剣道場、第 2 競技場などが配置され、市民のスポーツ活動の拠点として親しまれている。

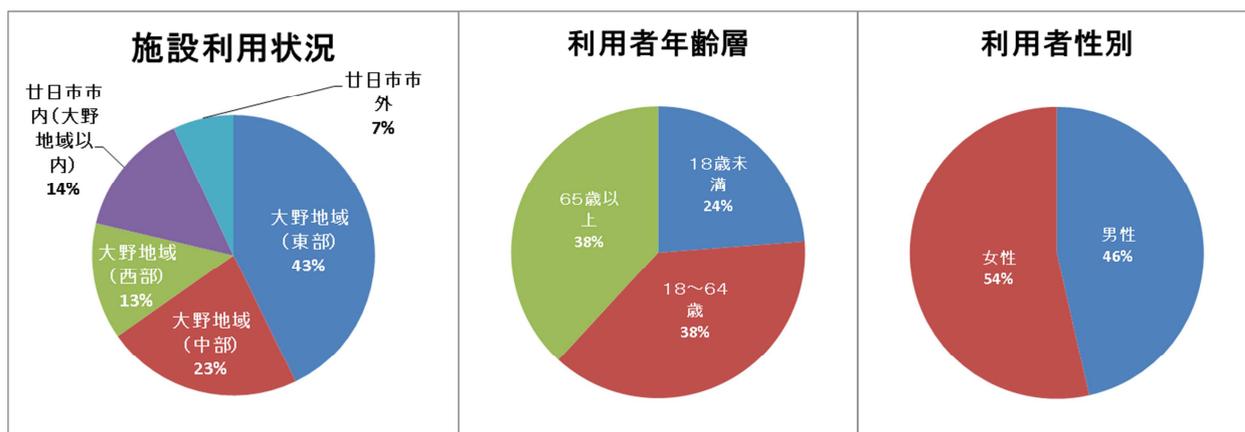
利用状況は、約 58,000 人／年で稼働率は 53%程度となっている。

運営状況については、使用料等の収入 2,341 千円に対し、支出経費は 11,343 千円と収入割合は 20.64%と他の施設に比べると高いものの、持続可能な公共施設とはいがたい状況にある。

施設については、本来であれば、使用停止すべきところであるが、市民のスポーツ活動を確保する観点から現在に至っても継続利用している。市民の生命、安全の確保の観点からも早急に対応策を決めていく必要がある。

建築年月 (経過年数)	構造	延べ床 面積	耐震性 (Is 値)	利用形態	配置機能	
S52.10 (40 年)	SRC 造 2F 建て	4,515 m <sup>2</sup>	0.05	体育館 (スポーツ活動)	アリーナ(大・小)・柔道場・剣道場・会議室×3 事務室・ロビー等	
職員配置数	運営方式	利用者数 (稼働率)	収入	支出	収入 割合	更新経費 (更新年度)
非常勤：1 人	直営 一部委託 (IWC)	57,581 人 (53%)	2,341 千円	11,343 千円	20.64%	1,820 百万円 (H49)

(参考) 大野体育館：1,100 人／週



東部：1 区～4 区  
中部：5 区～7 区  
西部：8 区～11 区

## ＜大野図書館＞

「大野図書館」は、平成6年度に整備され築23年とまだ新しく、耐震基準についても新耐震性能となっている。

施設面積等は、RC構造2階建て（一部3F）2,234㎡で、機能としては、図書閲覧室や大研修室、展示室などが配置され、市民の情報の発信拠点、生涯学習活動の場ともなっている。しかし、2階に配置されている大研修室や展示室の利用は、文化祭などのイベント行事に限定した利用がそのほとんどで、空き状態が多い状況である。

図書利用の状況は、約152,000人／年と多く、利用者が定着していることが見受けられる。

運営状況については、使用料等の収入88千円に対し、支出経費は65,960千円とそのほとんどが支出となっている。

施設としては建設から新しく、耐用年数も長いものの、建設から30年（平成36年）を更新時期とすると、10年以内には大規模改修の必要があることから、筏津地区の整備に併せて、今後の利活用方法などについて、検討する必要がある。

建築年月 (経過年数)	構造	延べ床 面積	耐震性 (Is 値)	利用形態	配置機能		
H6.3 (23年)	RC造 2F 建て	2,234㎡	新耐震	図書館 (読書活動)	図書閲覧室・大研修室・展示室×2・作業室・事務室・ロビー等		
職員配置数		運営方式	利用者数 (稼働率)	収入	支出	収入 割合	更新経費 (更新年度)
正規：3人 非常勤：1人 臨時：3人		直営	152,152人 (524人／日)	88千円	65,960千円	0.13%	890百万円 (H66)

## (2) 筏津地区公共施設の共通課題

### ＜機能重複と非効率な運営＞

現在の施設は、個別の目的ごとに整備されてきたため、施設ごとに独立して機能を発揮しているものの、事務所や会議室、さらには、ロビーやトイレなどの機能が重複している。

運営についても、各施設ごとに運営されていることから、運営経費の大きな負担となっており、筏津地区全体で見ると、非効率的な施設群、運営となっている。

### ＜駐車場の不足＞

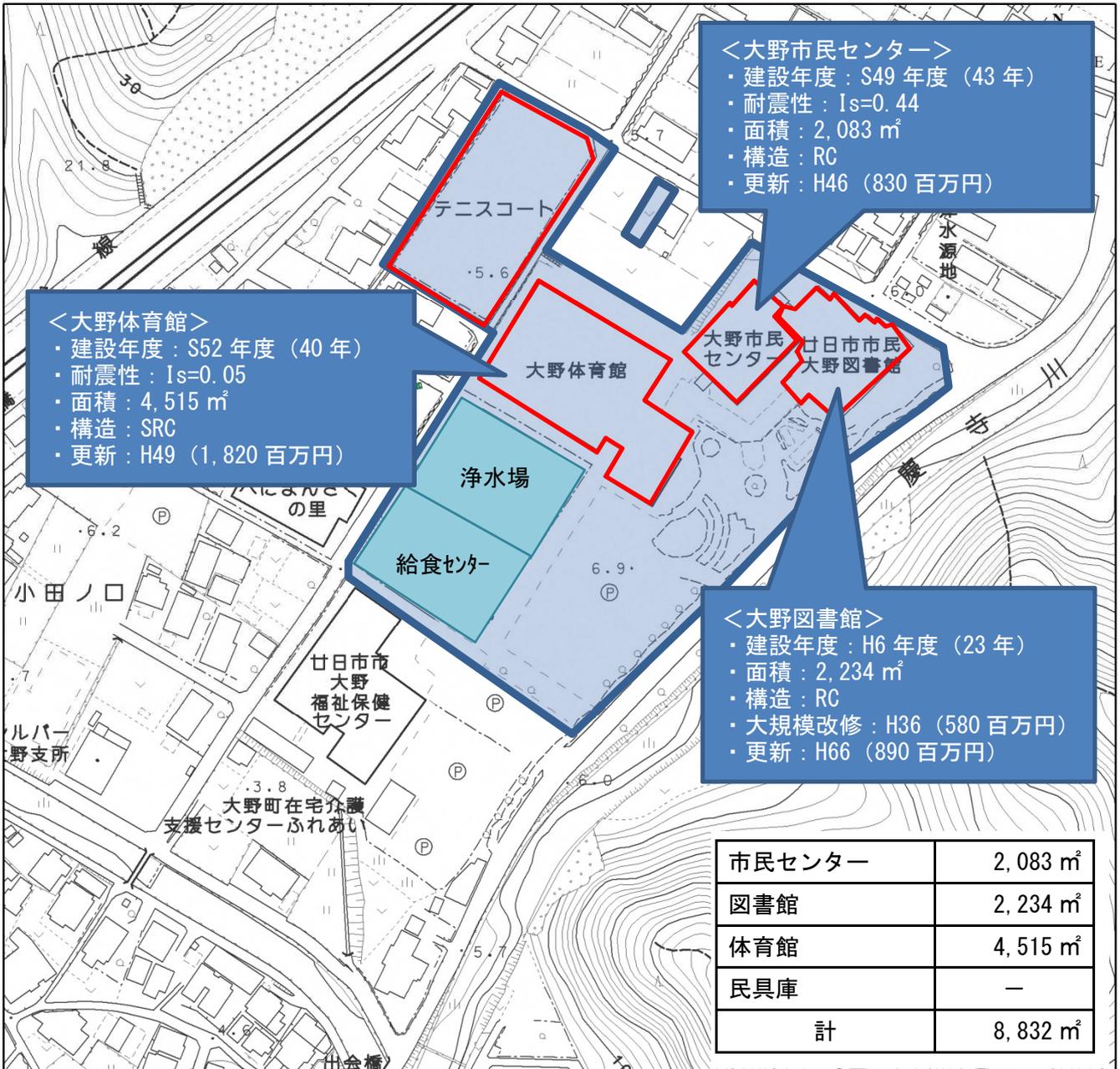
筏津地区の公共施設（市民センター・体育館・図書館・テニスコート）の利用者数の計は、約250,000人／年で、概ね700人／日程度である。単純に朝昼夕夜の4区分で除すと、170人程度となる。

現在の駐車場は、体育館前の駐車場で障害者用駐車場（4台）図書館専用駐車場（5台）を含め112台の収容が可能である。

通常時においては、市民センター、体育館の定例利用者のほか、図書館利用者で、充足している状況ではあるが、イベント時においては、恒常的に駐車場不足が発生しており、参加者や施設管理者、イベント催者のみならず、市道通行車両への妨げとな

っており、地区内の安全の観点や利用者の利便性の向上の観点からも、駐車場対策が必要である。

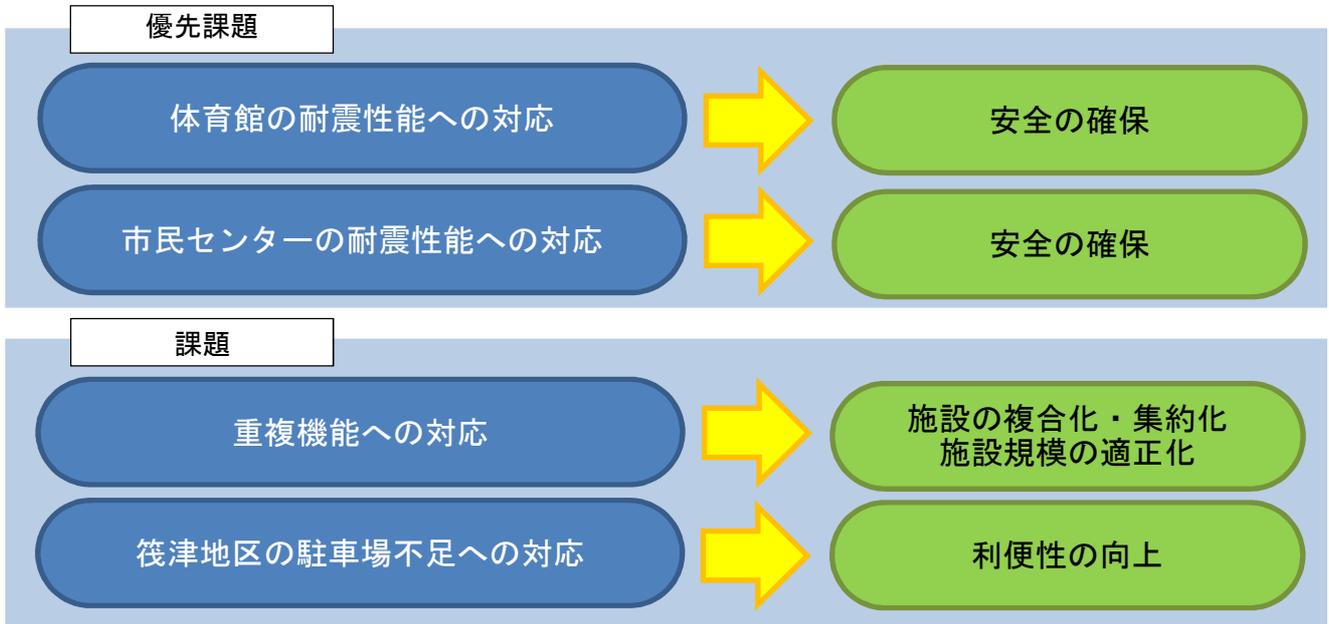
<筏津地区周辺施設配置図>



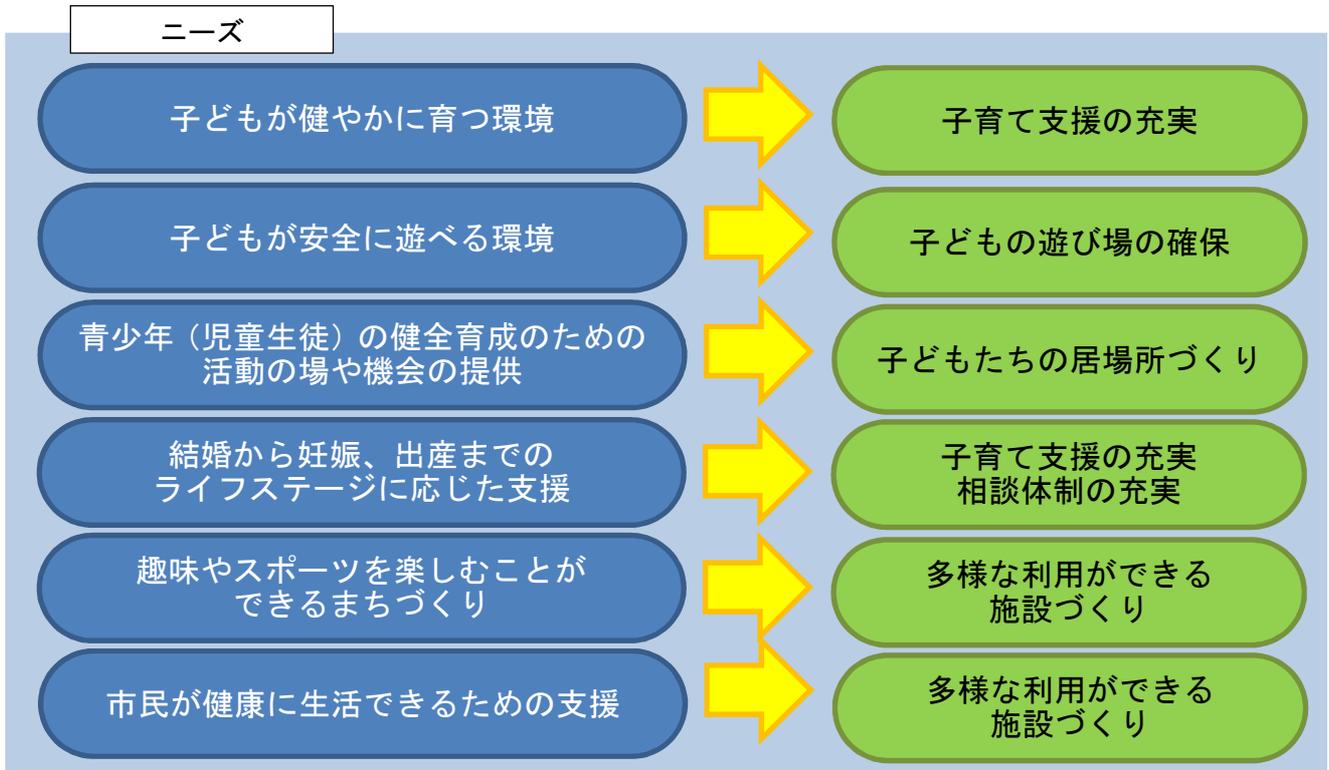
## 8 取り組むべき課題やニーズと整備の方向性

廿日市市が「住んでみたいまち」として選ばれ、「住み続けたい」と思っていただけ  
 まちづくりを推進していくため、筏津地区の公共施設が抱える課題や市民ニーズを捉え、  
 取り組むべき課題として整理し、筏津地区の公共施設の再編整備に当たっての方向性とする。

### <施設の課題>



### <市民ニーズ>



公共施設として、第一義は、市民、利用者の安全の確保である。また、将来的にも持続可能な施設として、効率的で有効な施設として整備していく必要がある。さらに、広く利用を促進するため、アンケート調査の結果やヒアリング結果から得た市民ニーズに対応し、潜在的利用者を発掘していくことも必要である。

## 9 課題やニーズに対応した整備の基本的な考え方

施設の現状・課題やアンケート、ヒアリング結果を筏津地区の抱える課題や市民ニーズと捉え、その対応策について検討するとともに、市の計画や方針との整合も図りながら検討する。

整備に当たっては、特に小さな子ども連れの子育て世代や児童・生徒等が気軽に利用できる施設となるよう、これまでの利用実態を踏まえ活動は確保しながらも、新たな利用者の発掘や訪れたいくなる憩いの場所、居場所としての機能や魅力を創出し、幅広い市民の利用に供していくことができるよう、また、総面積の縮減や運営経費の削減など、将来にわたって持続可能な施設として整備していくため、次のようにコンセプトを定め、進めていくこととする。

- ① 安全安心で子育てに優しく、子どもたちを応援する環境、居場所を創出
- ② 機能集約と一体運営による効率的で将来にわたり持続可能な施設

### (1) 安全の確保

整備に当たっては、利用者の安全を確保することは必須条件である。

そのため、耐震基準を下回る大野体育館は勿論のこと、大野市民センターについても、建替え整備の方向で進めていく。

また、駐車場不足やエリア全体の有効性を含めた対応策についても検討を進める。

施設	整備方向性	耐震化	
		整備前	整備後
市民センター	・改築（建替え）	Is 値=0.44 ⇒	⇒⇒新耐震
図書館	・耐震化不要・修繕・改修	新耐震	—
体育館	・改築（建替え）	Is 値=0.05 ⇒	⇒⇒新耐震

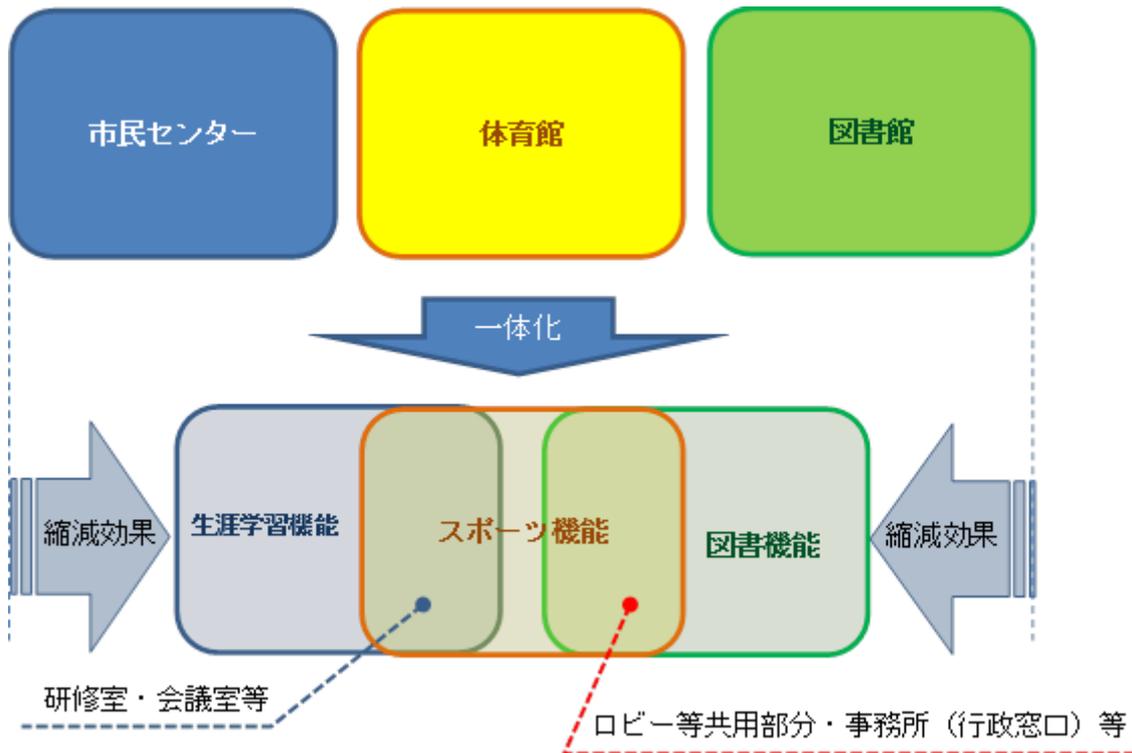
### (2) 施設の効率化

現在の施設群は、目的別に整備され、管理運営されており、ハード面・運営面でも非効率な施設群となっている。

整備に当たっては、現在の地域活動は確保しながらも、多様な利用ができ、効率的な施設とするため、「施設の一体化」を図るとともに、新たな機能と魅力を創出して、一層、幅広い市民への利用へつなぎ、多くの市民に愛される施設を目指して整備していく。

また、整備、運営については、公共が担うべき役割と民間活力の活用についても検討し、民間事業者へのサウンディング調査を実施するなど、民間のノウハウを活かした効果的な事業手法も視野に入れ、調査、検討する。

＜施設の一体化と縮減のイメージ＞



(3) 施設規模の考え方

施設の規模については、これまでの地域活動の確保、「公共施設マネジメント」に基づく総量の縮減の両面を考慮し、整備の参考とする規模として設定する。

また、図書館については、市民センター機能に統合することも検討し、現施設の更新の是非についても検討する。

＜規模の考察＞

施設	規模		規模の考え方
	整備前	整備基準	
市民センター	2,083 m <sup>2</sup>	1,500 m <sup>2</sup>	市民センター・子ども図書室
体育館	4,515 m <sup>2</sup>	2,500 m <sup>2</sup>	現在のアリーナ・柔剣道場等の合計規模程度
図書館	2,234 m <sup>2</sup>	1,300 m <sup>2</sup>	1F部分の書架、閲覧室等の規模程度
小計	8,832 m <sup>2</sup>	5,300 m <sup>2</sup>	△3,532 m <sup>2</sup> △40%
リビング ロビーホール	—	1,000 m <sup>2</sup>	子育て支援センター・ニューボラ ロビー・ロビーホール・事務所等
民間提案エリア	—	1,000 m <sup>2</sup>	喫茶・軽食などの居場所となる 魅力づくりの収益施設
合計	8,832 m <sup>2</sup>	7,300 m <sup>2</sup>	△1,532 m <sup>2</sup> (△17%) ロビー・ロビーホール・事務所等

#### (4) 子育て支援の充実

アンケートやヒアリングからも、子育て支援の充実のニーズは多かった。

その中でも、産前産後の支援や子どもの居場所・遊び場など、子育て親子や子どもの活動の場、機会が求められている。また、気軽に利用できる施設での交流の機会も求められている。

整備に当たっては、こうしたニーズに応えることができる施設として整備を進め、誰でもが、「目的もなく訪れてみたくなる施設」、「市民の居場所」として利用され、そして認識され、利用者層の一層の拡大により、地域の賑わいを創出する施設として整備を進めていくとともに、「子育てに優しい地域」の実現に向けて進め、子育て世代に「選ばれる」まちづくりに貢献できる施設としていく。

##### <ニーズのあった施設のイメージ>



#### (5) 利便性の向上（駐車場の整備）

筏津地区は、大野地域の各種行事やイベントの中心的な地区としての役割を担い、地域市民にも浸透し、広く認識されている。

イベント開催時には、恒常的な駐車場不足が発生しており、仮に整備後の利用者数（来場者数）の目標を1.5倍の37万人を設定した場合、さらに駐車場不足は顕著化し、通常利用時においても駐車場不足が発生することが懸念される。

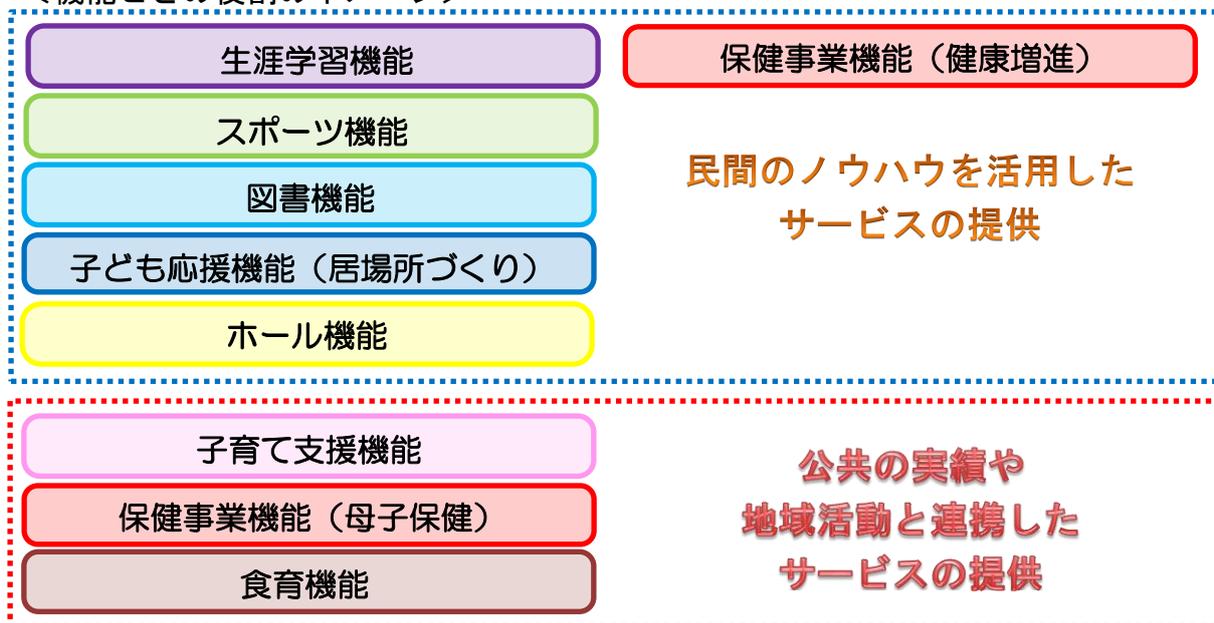
そうしたことから、自家用車での利便性の向上や周辺の交通環境の観点、さらに、小さな子ども連れ、高齢者に配慮した一定規模の駐車場を整備する方向で検討する。

## (6) 効率的・効果的な施設運営

施設の運営については、公共が担うべき役割と、民間のノウハウを活かした運営により、サービスの質や量が向上し市民ニーズに対応することができるものと分けて検討する必要がある。

文化活動やスポーツ活動、さらに図書活動については、民間による質の高いサービスの提供が広がっている。一方で、子育て世代が抱える課題やニーズについては、出産前からのライフステージに応じた、切れ目のない、きめ細やかな支援が求められており、相談機能や母子に関する健診等については、プライバシーの問題や民生児童委員、母子保健推進員などの地域の見守り体制との連携も重要であり、行政が担うことが信頼性や実効性も高く、課題やニーズに応じたきめ細やかなサービスを提供できるものと考えられ、さらに検討が必要である。

### <機能ごとの役割のイメージ>



民間が担うこととした場合の文化活動やスポーツ活動については、市民のいきがづくりやスポーツ活動の定着、健康増進・健康寿命の延伸などの観点からも、これまでの定例的・継続的な活動を確保すべきとの考えから、一定の行政支援（サービス購入型）を行いながら承継していく必要がある。

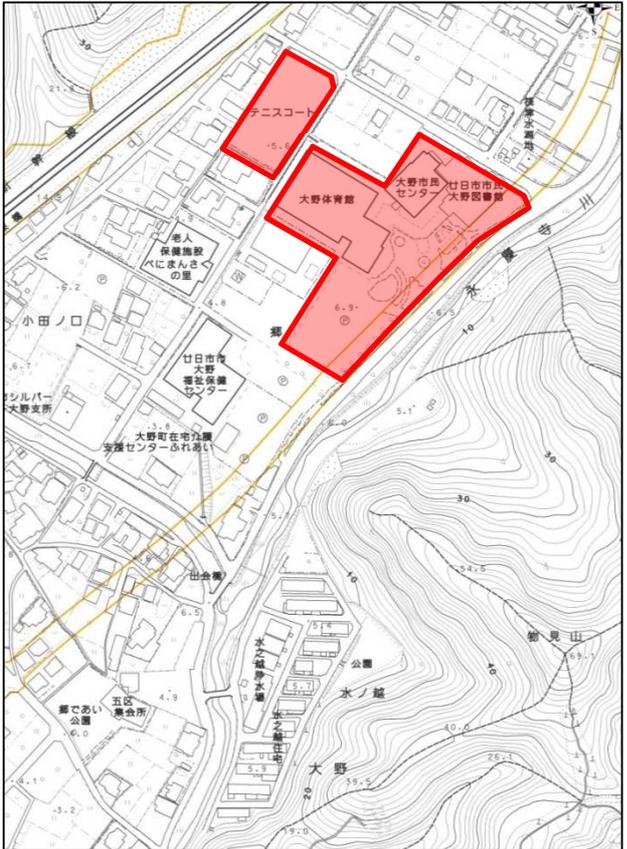
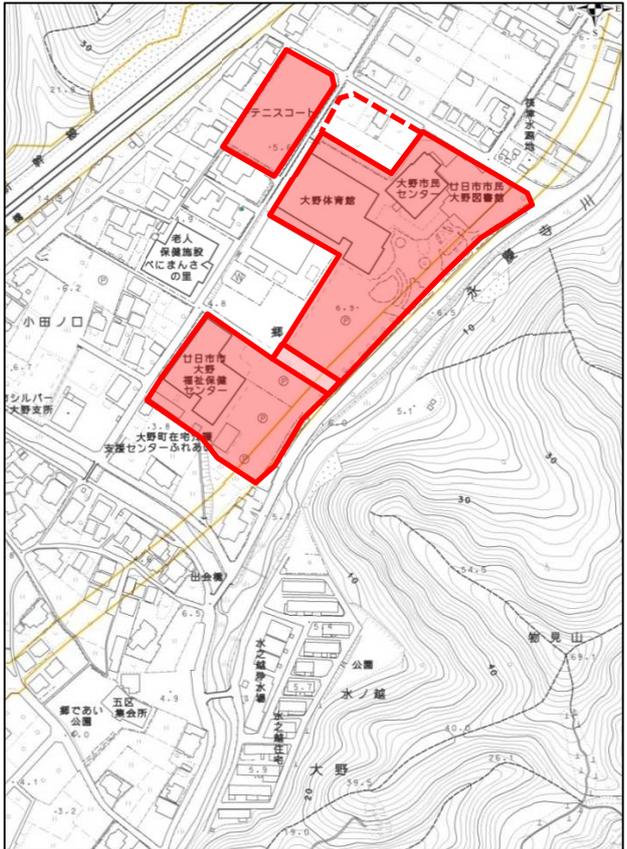
また、より高度な芸術活動や競技力向上に向けたカルチャー活動等については、特別講師などによる有料のサービスを提供することやロビーなどの空間を活用した物販、軽食、喫茶など民間の魅力を十分に発揮したサービスの提供も考えられる。

さらに、学校給食センターとの連携による学校給食の販売など、一定の独立的な採算活動により、施設の機能の利用を目的としなくても、訪れ、利用できる、市民の居場所的な施設、エリアとしての魅力を発信していくことで、一層、地域の賑わいの中心としての役割を担うことができると考える。

## 10 土地活用策の検討

将来にわたる筏津地区全体の有効活用や賑わいの創出など、これまで担ってきた筏津地区とその施設群の役割を継承しながら、さらに大野地域の中心的存在価値を上げていく地区づくりを進めていくため、現状における諸課題の解決とともに、より一層の拠点性を高める方策について検討を進めていく。

当面の共通課題としては、都市計画道路筏津郷線の計画が敷地内に大きく浸入していることにかかる調整があげられる。

① 現状維持型	②文化ゾーンエリア型
	
<p>&lt;メリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 用地購入等の手続きが不要</li> <li>• 全体事業費が低い。</li> </ul>	<p>&lt;メリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 体育館北側の民有地を整理することにより、多様な活用方法を検討することができる。</li> <li>• 福祉保健センターの敷地活用も含め、公有財産の有効活用を図ることができる。</li> <li>• 活用敷地が、正形で、かつ、広がることにより、不足する駐車場対策にも有効である。</li> </ul>
<p>&lt;デメリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 体育館北側に民有地があり、敷地は不正形で、利活用を検討するに当たっては、制限が多い。</li> <li>• 駐車場の確保ができない。また、工事期間中においても、資材置き場や作業ヤードが確保できない。</li> </ul>	<p>&lt;デメリット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 体育館北側に民有地が所在していることから、用地買収、移転補償が必要となる。</li> <li>• 現在整備中の大野学校給食センターの進入路が横断しており、ゾーニング、施設配置検討に影響がある。</li> </ul>

## 1.1 ゾーニング等の検討

### (1) 筏津地区のゾーニング

筏津地区のゾーニングに当たっては、これまでの機能を継続するとともに、その機能の向上を図り、市民に親しまれ、喜ばれる地区を目指すものとする。特に、利用者層の拡大については、これまでの文化・スポーツに加え、子育て支援の拠点として、また、スポーツを通じた健康増進活動の場として幅広く利用される「子育て・健康（スポーツ）・文化ゾーン」として魅力ある地区を目指すものとする。

また、既存の福祉保健センターが立地するエリアについては、「高齢者福祉ゾーン」として活用する。



### (2) 「子育て・健康・文化ゾーン」の施設配置イメージの検討

施設の老朽化や耐震性等の課題のほか、図書館の耐用年数や駐車場不足などの課題を解決し、さらに、子育て世代や児童生徒にとって、より魅力ある、市民に親しまれる地区として整備していくことが求められている。検討に当たっては、機能や運営の重複の解消、一体的なサービス提供など、効率的、効果的に整備を進めていく観点など、筏津地区に集積する公共施設を有効的に活用していくため、次の2つのパターンで検討を進めていく。なお、図書館（RC構造）の耐用年数を60年とした場合、平成66年に耐用年数を迎えることとなる。また、建設から30年で大規模改修を行うとした場合は平成36年となり、このことも考慮して整備方針を決定していく必要がある。

	配置イメージ	整備概要
<p style="writing-mode: vertical-rl;">(その1) 図書館改修・増築型</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館を建替え整備</li> <li>・ 市民センターを解体し、図書館を活用して、生涯学習・子ども図書・食育スペース等を増築するとともに、2Fの未利用の大研修室を改修し生涯学習スペースとして整備</li> <li>・ リビング、ロビーホールスペースを新設整備し、生涯学習・図書機能とスポーツスペースをつなぎ、一体化整備</li> <li>・ 北側には広場エリアを整備し、屋外の遊び場、憩いの場として整備</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">(その2) 図書館建替え型</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育館、市民センターを解体し、生涯学習・図書・食育・スポーツスペースとリビング・ロビーホールを一体的に建替え整備</li> <li>・ 前面に広場エリアを整備し、屋外の遊び場、憩いの場として整備</li> <li>・ 図書館は、更新時期（平成36年）には整備せず、将来的に一体型施設に機能集約した後に建物を解体し、駐車場エリアとして整備</li> </ul> <p>※工事期間や図書館の解体と駐車場エリアの整備完了までの間、地区内の駐車場不足は顕著に出てくることが懸念</p>

12 事業スケジュール

区分	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○議員全員協議会</li> <li>○補正予算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補正予算</li> <li>○当初予算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○議決 (12月)</li> </ul>		
施設整備  図書館 市民センター リビング	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画策定 (全体計画)</li> <li>●地元説明会</li> <li>●サウンディング調査 (2回)</li> <li>●事業手法決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アドバイザー業務</li> <li>●事業者決定 (DBO)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能</li> <li>仮ソーニング</li> <li>スケジュール</li> <li>事業手法</li> <li>VFM</li> <li>事業費</li> <li>運営費</li> <li>導入可能性調査</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施方針</li> <li>募集要項</li> <li>要求水準書</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>設計～解体～工事</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>供用開始</li> </ul>
施設整備  体育館 リビング (一部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>解体設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計</li> <li>解体工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新築工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部供用開始 (体育館)</li> </ul>	

1.3 財源の検討

(1) 交付金

交付金	事業名	要件	交付期間	交付率	交付限度額	起債措置
社会資本整備総合交付金	都市再生整備計画事業	都市再生整備計画とともに、それを位置づけた社会資本総合整備計画を策定し、国土交通大臣に提出	概ね3年から5年	40%	「交付対象事業費の4割」と「基幹事業費の10/9の1/2」のいずれか少ない金額	公共事業等債 充当率90% 交付税措置 20%

(2) 起債

起債名	事業名	要件	充当率	交付税措置(率)		措置期間
公共施設等適正管理推進事業債	立地適正化事業	・地適正化計画に基づく地方単独事業	90%	30% ~50%	元利償還金	H29~H33
	集約化・複合化事業	・個別施設計画に位置づけられた公共施設等の集約化・複合化事業	90%	50%	元利償還金	H29~H33
	ユニバーサルデザイン化事業	・ユニバーサルデザインの推進計画等に基づく事業 ・個別施設計画にユニバーサルデザイン化事業として位置づけられている事業	90%	30~50%	元利償還金	H30~H33